

アカウキクサ

シダ植物 サンショウモ科

Azolla pinnata R.Br. subsp. *asiatica* R.M.K.Saunders et K.Fowler

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下である。現存は確認できない。

【種概要】 小形で浮遊性の常緑性シダ植物。茎はやや密に分岐し、葉と少数の根を生じ、植物体の全形は三角形で長さ1～1.5 cm。葉は互生して鱗片状、表面に粒状の突起が密生。根には長い根毛がある。孢子嚢群は秋以降に成熟する。

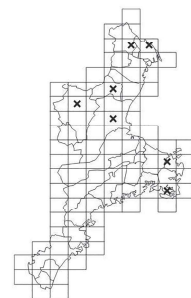
【分布】 国内では本州（東海地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、亀山市、津市、伊賀市、伊勢市、鳥羽市、志摩市で生育の記録がある。

【現況・減少要因】 水田雑草で、しばしば栄養的に繁殖していたが、乾田化、除草剤の使用、水質の汚染や耕作放棄に伴う遷移の進行などにより絶滅したと思われる。

【保護対策】 かつての生育地、湧水のある谷地田などは、定期的な草刈り、水田の耕起などの人的管理により再生する可能性もある。

【文献】 34, 74, 116.

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

EN

コガネシダ

シダ植物 イワデンダ科

Woodsia macrochlaena Mett. ex Kuhn

【選定理由】 既知の生育地点数は2であるが、過去の生育地では確認できない。

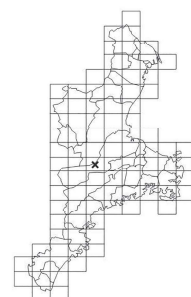
【種概要】 乾燥気味の岩の間や崖面に着生する。夏緑生。葉は根茎から叢生する。葉柄と葉身の間に関節があり折れやすい。葉の裏面に白毛があり、羽片は最下羽片を除いて中軸に沿着する。孢子嚢群は各裂片に1～数個、縁寄りにつく。

【分布】 本州、四国、九州に分布するが、近畿地方では稀である。県内では松阪市飯高町、飯南町に記録がある。現状では確認できない。

【現況・減少要因】 生育場所が岩場であり、環境条件の変化により生育できなくなった可能性が高い。マニアによる採取圧も考えられる。

【保護対策】 新たな生育地が確認された場合は、関係者によく保護の必要性を働きかけること。

(南 正祝)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

オオカグマ

シダ植物 シンガシラ科

Woodwardia japonica (L.f.) J.Sm.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、自生地の消失により絶滅したと思われる。

【種概要】 常緑性のシダで根茎は太く短く、濃褐色から赤褐色の鱗片を密につけるやや大形のシダ。葉身は狭長楕円形から卵状披針形で2回羽状中裂する。孢子嚢群は細長く、裂片中肋に沿って並ぶ。

【分布】 国内では紀伊半島、中国地方西部、四国（西・南部）、九州の平地から低山地のやや乾燥した林下に生育。国外では済州島、台湾、中国、ミャンマー、インドネシアに分布。県内では名張市の1か所に生育していた。

【現況・減少要因】 県内における過去の記録は1例のみで、詳細な生息状況に関する報告はない。名張市の自生地は林地崩壊による土砂により埋没枯死した。今後、調査により他所で発見される可能性は否定できない。

(南 正祝・山原祐衣)



三重県 2025

EX

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

非公表

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

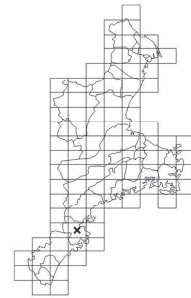
タカサゴイヌワラビ

Athyrium silvicola Tagawa

シダ植物 メシダ科

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
 【種概要】 ミヤコイヌワラビによく似ているが、葉質が厚くて常緑性。羽片は45°に斜開し鋸歯も浅い。1955年倉田悟が本県で採集したものは、葉柄紫色の品種、キノクニイヌワラビと命名した。キノクニイヌワラビを区別すれば、日本のものはほぼ全てがキノクニイヌワラビになる。
 【分布】 国内では三重県尾鷲市、九州南部、屋久島。国外では台湾に分布。
 【現況・減少要因】 もともと1個体しかなかったものが採集されたため消滅した。
 【保護対策】 今後の再発見は難しいと考える。再発見の場合は周辺の森林伐採等、山林主や行政にも連絡し、開発行為を避ける。
 【文献】 67, 115.

(大洞浩一)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	CR

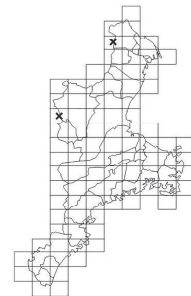
メヤブソテツ

Cyrtomium caryotideum (Wall.ex Hook.et Grev.) Presl

シダ植物 オシダ科

【選定理由】 既知の生育地点数は2であるが、現存は確認できない。
 【種概要】 常緑性のシダで、ヤマヤブソテツに似ているが、頂羽片が大きく発達すること、側羽片は2~6対であること、羽片の辺縁には細鋸歯があることなどが特徴である。
 【分布】 関東地方・中部地方東南部・紀伊半島・四国・九州の石灰岩山地に生育することが多い。県内ではいなべ市藤原町、伊賀市に記録がある。国外ではヒマヤラから台湾、フィリピン、ハワイ。
 【現況・減少要因】 いなべ市の藤原岳、伊賀市大滝峡で記録がある。

(市川正人)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

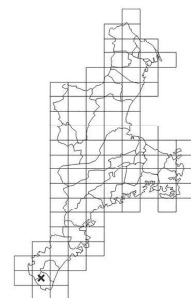
ナガサキシダ

Dryopteris sieboldii (Van Houtte ex Mett.) Kuntze

シダ植物 オシダ科

【選定理由】 既知の生育地点数は1である。個体数は1株であったが消滅した。
 【種概要】 葉柄、葉身合わせて1.3 m程になる常緑性のシダで、側羽片は2~6対で15~30 cm、頂羽片もほぼ同形である。根茎は短く株立ちする。鱗片は褐色から黒褐色で披針形から線形である。孢子嚢群は羽片の全面に散在している。
 【分布】 千葉県以西の太平洋側や四国にやままれに生え、九州各地では山地林下に生育。県内では紀宝町の1個体だけであったが消滅した。国外では中国。
 【現況・減少要因】 植林谷間に生育していたが消滅した。原因は植生遷移である。

(市川正人)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

クラガリシダ

シダ植物 ウラボシ科

Lepisorus miyoshianus (Makino) Fraser-Jenk. et Subh.Chandra

【選定理由】 既知の生育地点数は2であるが、現状では確認できない。

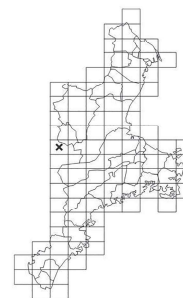
【種概要】 山林下の樹幹や岩上に着生する。常緑性。葉は細く、長さ40 cm位に達する。根茎上に葉の落ちた跡が残る。胞子嚢群は中肋の両側の溝につく。葉の表の中肋は凹む。ナカミシシランは葉の表面に2条の溝があり、シシランは1条の溝で胞子嚢群は葉縁につくので区別できる。

【分布】 本州（静岡県以西）、四国、九州に点在する。県内では、名張市で標本記録があるが、その後確認できない。

【現況・減少要因】 森林の伐採や観光地化により環境が変化した可能性が大きい。

【保護対策】 シシランに似ているため、見逃されている可能性もあり、再調査することが必要である。

(南 正祝)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

EN

サツマシダ

シダ植物 オシダ科

Ctenitis sinii (Ching) Ohwi

【選定理由】 全国的に分布が限られているシダ植物で、三重県はその北限にあたる。かつて自生地で採集された株が栽培されていたが枯死している。

【種概要】 葉身の長さ60 cmほどになる常緑性シダ。葉柄や中軸には鱗片が密生し、よく目立つ。葉柄基部の鱗片は褐色で細長く、上部や中軸につく鱗片は黒褐色で披針形。

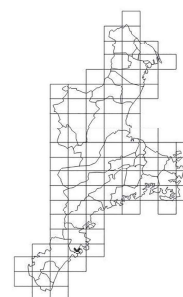
【分布】 三重県と九州南部。国外では中国南部、朝鮮半島に分布。県内では尾鷲市賀田のヒノキ林での記録があり、当地域が分布の北限となっている。1962年および1963年に採集された標本が残っている。

【現況・減少要因】 1962年に賀田で発見されたが、その後マニアの乱獲により絶滅。以降現在まで確認情報はない。

【保護対策】 自生地の栽培株が自生地周辺および尾鷲市内の山林内数か所に移植されており、自然分布が攪乱されているため注意を要する。

【文献】 56.

(山本和彦)



三重県 2025

EW

三重県 2015

EW

環境省 2020

EN

ヒモヅル

シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Lycopodium casuarinoides Spring

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、生育面積が狭い。

【種概要】 山地の疎林中に生育する、つる性の常緑シダ。茎の主軸は数mに達し、木の枝にからみつく。葉はまばらについて、茎に圧着する若い個体では開出。胞子嚢穂は枝の小枝の先端に1~3個頂生し、長さ1~4 cm、直径3~4 mmである。

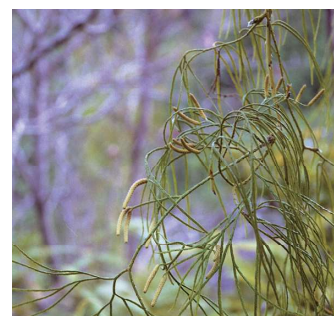
【分布】 本州（三重県、滋賀県、和歌山県、山口県）、九州。県内では紀州地域に分布し、本種の自生地北限である。

【現況・減少要因】 土地造成や森林伐採が減少の要因であるが、観察のために人による踏みつけも圧力になる。

【保護対策】 採集を防止するため山林所有者と連絡をとり、周囲の環境保全に努めている。

【特記事項】 三重県指定希少野生動植物種。

(花尻 薫)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

(写真：御浜町，2004年，山本和彦撮影)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

アスヒカズラ

シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Lycopodium complanatum L.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数はきわめて少なく、絶滅の可能性が大きい。

【種概要】やや日当たりの良い山地上部に生育する常緑性のシダ植物。主茎は小さい鱗片状の葉を4列に着けた紐状で、長く地を這う。小枝は扁平で表は緑色、裏は淡緑色、節が明らかである。小枝の先に柄のある孢子嚢穂を1~5個つける。アスヒ（アスナロ）の葉に見立てた和名である。

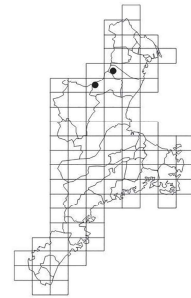
【分布】北海道・本州・四国に分布。県内では鈴鹿市、伊賀市で記録されている。国外では北半球の温帯域

【現況・減少要因】少なくとも鈴鹿市の山地で、数株ではあるが現在も生育している。温暖化による生育環境の変化が減少要因と考えられる。

【保護対策】現在の環境を保ちたい。

(市川正人)

(写真：鈴鹿市，2005年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ヒモラン

シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Phlegmariurus sieboldii (Miq.) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、マニアや園芸業者等による採取圧が強い。

【種概要】ヒモ状の茎は叢生し、まばらに叉状に分岐して下垂し長さ50 cmに達する。葉は短い鱗片状で茎に圧着する。

【分布】朝鮮、中国、台湾に分布し、国内では千葉県から紀伊半島、四国（愛媛県）、九州に分布する。県内では名張市、大台町で記録がある。

【現況・減少要因】1970年以降確認されていなかったが、今回の改訂における調査期間に自生地が1か所見つかった。

【保護対策】深山の巨木等に生育するため、森林伐採などの開発行為を避ける。生育地周辺の大掛かりな調査も必要。マニアによる採取を防ぐため、自生地の詳細は非公表とする。

【文献】80, 115.

(大洞浩一・平山大輔)

(写真：2023年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

チャボハナヤスリ

シダ植物 ハナヤスリ科

Ophioglossum parvum M.Nishida et Kurita

【選定理由】1905年に標本が採取されてから後の100年間に生育記録が得られていなかったが、近年になって新たな産地が発見された。

【種概要】高さ7 cm以下の小形植物。根茎は塊状で短い。担葉体は短く1 cm以下。葉柄は短く1 cm以下。

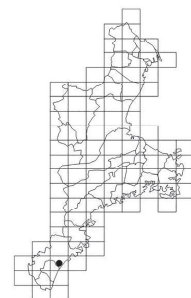
【分布】静岡県、三重県、和歌山県、伊豆青ヶ島。県内では、1905年に四日市市で採集されたパラタイプ標本(MAK)の記録がある。向陽地の芝生状草地に生育する。

【現況・減少要因】芝生状草地の開発や管理法の変化。保全には、芝生状草地の適切な維持が必要。

【特記事項】1980年にNishida and Kurataによって新種記載された。

(藤井伸二)

(写真：熊野市，2020年，畠康平撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

リュウキュウコケシノブ
Hymenophyllum riukiense H.Christ

シダ植物 コケシノブ科

【選定理由】既知の生育地であった紀宝町では絶滅したが、2024年に熊野市で再発見された。岩上にごく狭い範囲にのみ生育している。

【種概要】岩上生で常緑性のシダ。葉身は3回羽状複葉、長さ3~10 cm、無毛、鮮緑色。葉柄には基部を除いて翼がつき、いちじるしく縮む。包膜先端部には鋸歯がみられる。

【分布】紀伊半島、四国南東部、九州南部から沖縄にかけて分布。タイ北部と海南島でも知られている。多湿な岩上に生じる。県内での自生地は、紀宝町（絶滅）、熊野市のみである。

【現況・減少要因】熊野市内の溪流沿いの岩上に生育。今のところ他では確認されていない。小さな個体群であり、採取等により簡単に消滅する危険性がある。

【保護対策】自生地周辺の森林伐採等、生育環境の改変を避ける配慮が必要。
(山本和彦)

(写真：熊野市，2024年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヘゴ
Cyathea spinulosa Wall. ex Hook.

シダ植物 ヘゴ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は非常に少ない。

【種概要】木生の亜熱帯性シダ。茎は4 mをこえ、葉は長さ2 mをこえる。県内では茎の高さは2 mほどで、冬の寒波により葉が枯れることもある。

【分布】伊豆諸島、小笠原、紀伊半島南部、四国南西部、宮崎県南部、長崎県五島列島、熊本県南部、鹿児島県南部から沖縄。国外では台湾、中国大陸南部、インドシナ半島に分布。県内では紀州地域で記録がある。

【現況・減少要因】1959年尾鷲市九鬼で発見され、1971年にも尾鷲市内で採集されている。これらの自生地の株はいずれも1個体で、発見後移植、栽培されたため、現地には存在しない。その後、紀宝町で確認され、さらに2001年には尾鷲市で再発見されている。これらの株は今のところ健在である。

【保護対策】マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の公表を避けることが必要。また生育地は造林地であるため、森林施業による生育環境の攪乱が懸念される。施業にあたっては注意が必要で、とくに皆伐は避けるべきである。

【特記事項】三重県指定希少野生動物植物種。

【文献】56, 129.

(山本和彦)

(写真：紀州地域，2019年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメムカゴシダ
Monachosorum x arakii Tagawa

シダ植物 コバノイシカグマ科

【選定理由】既知の生育地点数は1。今後、新産地が加わる可能性は低い。またニホンジカ（以下シカ）による採食圧や人為的採取圧も強い。

【種概要】葉身長70 cmほどになる常緑性シダ。中軸に大きな無性芽が数個つき、これによる繁殖もみられる。ヒマラヤから台湾にかけて分布するムカゴシダとオオフジシダとの雑種と推定されている。

【分布】日本固有の雑種。福井、岐阜、三重、滋賀、京都、兵庫、和歌山、山口、徳島、高知、熊本、鹿児島島の各府県に分布。県内では尾鷲市が唯一の生育地。

【現況・減少要因】乱獲やシカによる食害で個体数は減少している。現在生育が認められるのは、岩陰などシカの採食が困難な場所のみとなっている。

【保護対策】シカによる食害は防ぎようがない面があるが、マニアによる採取の防止も難しい面がある。現況では、生育地の公表を避ける等の消極的な対策しかない。

【特記事項】雑種であるが、無性芽等による栄養繁殖によって永続的個体群が維持されていることから、独立した分類群に相当する実態を持つ。県内での生育地が限定されていること等からCRが相当と判断した。三重県指定希少野生動物植物種。

【文献】149.

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2014年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タキミシダ

Antrophyum obovatum Baker

シダ植物 イノモトソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現在、生育が確認できるのは2か所である。

【種概要】やや陰湿な林内の溪流近くの岩上などに生ずる常緑性シダ。葉柄は普通長さ8cm以下、基部に鱗片がある。葉身は、倒卵形。

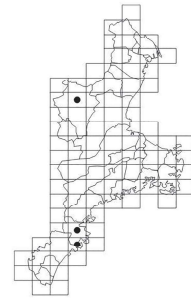
【分布】本州（山梨県以南）、四国、九州。県内では伊賀市、紀北町、尾鷲市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】伊賀市、紀北町では生育が確認できない。また、現存する熊野市の生育地でも園芸目的の乱獲により、極度に減少している。なお、山野、林野の荒廃により本種の生育に適した環境は減少しており、やがて絶滅の可能性もある。

【保護対策】一部の個体を生育地の近くの場所へ移して保護していくことも検討する必要がある。また、尾鷲市の生育地一帯には、生育の可能性があるので精査が必要である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：尾鷲市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

ヒカゲアマクサシダ

Pteris tokioi Masam.

シダ植物 イノモトソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は3。現在、生育が確認できるのは2か所のみ。

【種概要】常緑性シダ。一見、オオバノハチジョウシダに似るが葉柄・葉軸は褐色。小羽片は羽軸まで切れこむことはない。葉は1m前後に達する。

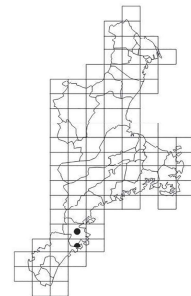
【分布】本州（三重県）、九州（宮崎県、鹿児島県）。県内では紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

【現況・減少要因】熊野市の自生地は、周囲が崩落の危険性もあり、凹地にある本種の減少が懸念される。

【保護対策】生育地の周囲の樹木が倒壊したり、枯死したりすると絶滅の恐れがある。樹林全域の保護が重要課題である。また、尾鷲市の生育地一帯の精査が必要である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：熊野市，2008年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

ヒメイノモトソウ

Pteris yamatensis (Tagawa) Tagawa

シダ植物 イノモトソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、生育地における個体数は50未満である。

【種概要】イノモトソウやキドイノモトソウに似るが、前者とは側羽片基部が中軸に流れる翼がないこと、後者とは羽片に偽脈がないことで区別できる。固有種。

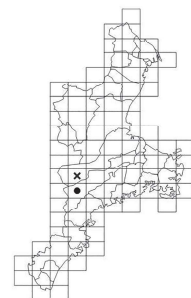
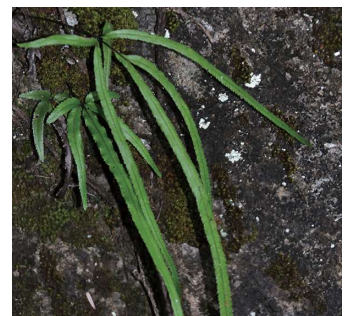
【分布】本州（三重県、奈良県）に分布し、県内では松阪市・大台町で記録がある。石灰質の岩崖の隙間や小さなテラスに着生する。

【現況・減少要因】現存は大台町1ヶ所に限られる。過去には松阪市でも記録があるが、消滅した。生育地・個体数ともに少なく、繁殖力も弱い。樹林伐採や道路拡幅、岩崖崩落などが減少要因。

【特記事項】上記の減少要因となる行為を避けることはもちろんであるが、地域個体群の遺伝的特性を保持しつつ繁殖を高める研究が必要である。

(市川正人)

(写真：大台町，2010年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

EN

オオタニワタリ

Asplenium antiquum Makino

シダ植物 チャセンシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は1で、個体数も多くはない。また、今後新たな生育地が発見される可能性は低い。

【種概要】常緑性。根茎は塊状、多数の葉を放射状に出す。葉身は単葉、広披針形、全縁で鋭頭、基部はくさび形、革質、無毛、鮮緑色で光沢があり、下面は淡色、大きいものでは長さ1m、幅15cmに達する。葉柄は短い。

【分布】伊豆諸島、紀伊半島、四国（徳島県東南端）、九州（西、南部）、沖縄。国外では朝鮮済州島、台湾、香港に分布。県内では紀北町に自生する。

【現況・減少要因】紀北町大島に群落がみられる。ここが県内で唯一の生育地となっている。自生地は、斜面の崩落がしばしば発生し、土砂による埋没が危惧される。マニアによる採取も懸念される。

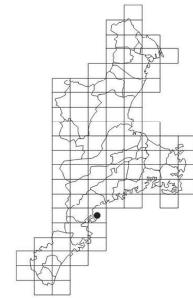
【保護対策】大島は、国指定の天然記念物として保護され、許可のない上陸は禁止されているが、パトロールの強化や斜面崩落防止の対策が必要。

【特記事項】三重県指定希少野生動植物種。

【文献】134.

(山本和彦)

(写真：紀北町，2008年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ヤマドリトラノオ

Asplenium castaneoviride Baker

シダ植物 チャセンシダ科

【選定理由】過去の標本（1956年）をはじめ生育が確認されていたが、雑種（独立種とする見解あり）とされていたため、RDBには、掲載されていなかった。近年、独立種として扱われ、県内では1地点に限り生育し、個体数も少ないことからCRとして取り上げた。

【種概要】石灰岩地の山林下や石垣などに着生する。短い根茎から単羽状複生のやや厚い草質の葉を叢生する。葉は2形性で孢子葉は長い。

【分布】北海道・本州・九州、県内では伊賀市の1地域に限り生育する。国外では中国東北部。

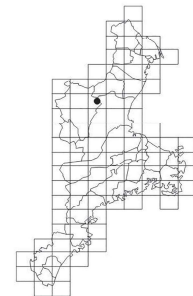
【現況・減少要因】1995年の標本があるが、現状は不明である。マニアによる採取圧が懸念される。

【保護対策】採取圧の回避を含む生育地の保全を要する。

【特記事項】本種は独立種の見解はあったものの雑種（トラノオシダ×クモノスダ）として認識されていたが、独立種となった。

(市川正人)

(写真：伊賀市，1955年，百永章採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

CR

イノウエトラノオ

Asplenium varians Wall. ex Hook. et Grev.

シダ植物 チャセンシダ科

【選定理由】既知の生育地点は1、個体数は1,000未満。国内では2011年に宮崎県で初めて発見され、次いで2018年に熊本県、3例目が三重県で2021年に新産地として報告されている。

【種概要】コバノヒノキシダに似るが、コバノヒノキシダは中軸の向軸側に明瞭な隆起があり、葉は硬い草質であるのに対し、本種は隆起せずに凹み、葉は草質である。また最下側羽片は葉身中部の側羽片の半分程度の長さとなる。

【分布】国内では宮崎県、熊本県、三重県その他、2023年には島根県でも確認されている。国外ではアジアからアフリカにかけて広く分布している。県内では尾鷲市のみであるが、今後分布が広がる可能性もある。

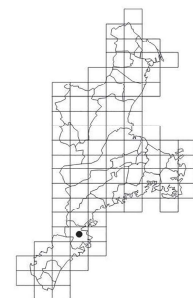
【現況・減少要因】自生地周辺は今のところ開発されることはないと思われるが、マニアによる採取が危惧される。

【保護対策】保護に関しては、生育地の公表は避けることや自生地周辺の森林を保全することが必要である。

【文献】155, 157, 158.

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2024年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ホソバシヨリマ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris beddomei (Baker) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体群も1つしかなく、この個体群がなくなれば県内から絶滅する。

【種概要】夏緑性、根茎は匍匐する。葉身は細長く、羽片は葉身下部のものが小さくなり、最下部では痕跡的になる。裂片の側脈は単状で葉縁に達しソーラスは裂片の辺縁寄りにつく。

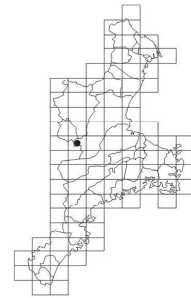
【分布】国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布し、韓国、中国、台湾や東南アジアに広く分布している。県内では伊賀市で記録がある。明るい湿った場所を好むが、県内では落葉低木林内に生育している。

【現況・減少要因】伊賀市の標高900 m付近に生育する1個体群のみである。マニア等の採取、遷移の進行による環境変化により減少している。

【保護対策】マニア等の採取に対する防止策をたてる。遷移の進行を止める保全策を行う。

(南 正祝)

(写真：伊賀市，2005年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

ツクシヤワラシダ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris hattorii (H.Itô) Tagawa f. *nemoralis* (Ching) Ebihara et Nakato

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、いずれの生育地でも個体数は少ない。マニア等の採取、環境の変化や開発によって容易に絶滅する。

【種概要】ヨコグラヒメワラビとは変種の段階で区別されている。葉柄が淡緑色で、葉柄から中軸、羽軸の表面に短毛があり裏面は無毛ということで母種から区別されている。

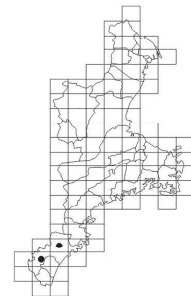
【分布】国内では本州（岐阜県以西）、四国、九州に分布し、県内では熊野市で記録がある。山地の林下に生育する。中国がタイプ産地である。

【現況・減少要因】熊野市2か所。マニアによる採取、森林伐採や気候変動による環境変化、道路等の建設による生育地破壊で減少している。

【保護対策】マニア等の採取に対する防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路建設等の開発行為は避けるべきである。

(南 正祝)

(写真：岐阜県，2010年，宮崎弘規採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

オオバシヨリマ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris quelpaertensis (H.Christ) Ching

【選定理由】生育地点数は3、個体数は50未満である。シカ食害圧が強い。

【種概要】県内では高所温帯域に生育する夏緑性のシダである。葉は2回羽状で全裂し、大きくは1 mを越える。葉柄や中軸には広披針形・全縁・淡褐色の鱗片や毛が着く。孢子嚢群は円形で裂片の縁寄りに着く。

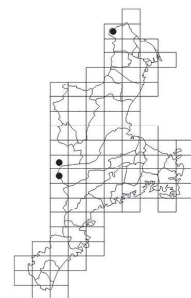
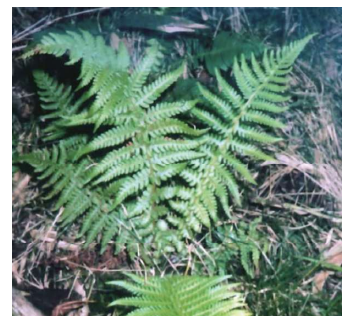
【分布】北海道・本州・四国・屋久島。県内ではいなべ市・松阪市。国外では朝鮮・千島・カムチャッカ・アリューシャン列島。

【現況・減少要因】シカ食害により大きく成長した個体は皆無である。

【保護対策】防鹿柵設置や個体数管理など食害からの保護対策を要する。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2005年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

アタシカカナワラビ

シダ植物 オシダ科

Arachniodes exilis (Hance) Ching f. *oohorae* (H.Itô) Seriz.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、生育地は不安定な環境である。

【種概要】 ホソバカナワラビ群のものであるが、葉身は3~4回羽状。ホソバカナワラビに比べ羽片の柄も長く、ソーラスはごく小さく辺縁近くに位置し頂羽片もそれほど顕著でない。

【分布】 熊野市のみ生育が確認されている。

【現況・減少要因】 台風時の洪水、森林の伐採により激減している。

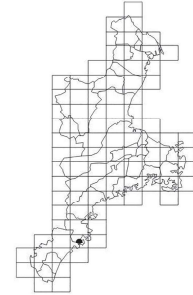
【保護対策】 森林の適切な管理が急がれる。

【特記事項】 山林伐採前に、一時緊急移植を試みて成功した事例がある。

【文献】 38.

(大洞浩一)

(写真：熊野市，2011年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヒロハナライシダ

シダ植物 オシダ科

Arachniodes quadripinnata (Hayata) Seriz. subsp. *fimbriata* (Koidz.) Seriz.

【選定理由】 既知の生育地点数は1のみ。2018年に1個体だけ発見され、その後新たな生育情報は得られていないことや、全国的にまれな植物であることからCRと判定した。

【種概要】 地上生で常緑性のシダ。葉身は4回羽状中裂から全裂、広五角形状、黄緑色（光沢なし）。薄い草質。葉柄はほぼ全体が赤褐色。鱗片は背軸側軸上でまばら（淡褐色、卵状狭被針形、袋状にならない、不規則な鋸歯縁）。最終裂片は粗い歯牙縁。包膜は円腎形で長い縁毛あり。オシダ科カナワラビ属であるが、葉身は柔らかく、裂片の切れ込みが深いので繊細な印象がある。

【分布】 本州（中部と近畿の一部）・九州中部に分布。県内では大台町のみで確認されている。当自生地が三重県新産地となる。

【現況・減少要因】 林道脇に生育していたが、今のところ他では確認されていない。自生地周辺ではニホンジカの嗜好植物であるナチシダ、イワヒメワラビが発見当時と比べ一面に繁茂しており、被陰による影響が危惧される。

【保護対策】 自生地やその周辺等で再確認される可能性も否定できないため、周囲の環境を保全することが重要。

【特記事項】 本種は2018年に大洞浩一氏により発見された。

(宮島美栄)

(写真：大台町，2018年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

EN

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハガクレカナワラビ

シダ植物 オシダ科

Arachniodes yasui-inouei Sa.Kurata var. *yasui-inouei*

【選定理由】 既知の生育地点数は4。生育面積は狭く、個体数も少ない。今後新たな個体群が発見される可能性が低い。

【種概要】 常緑性で、比較的まれに山地の林床に生じる。側羽片は上部に向けてしだいに短くなり、頂羽片というべきまとまりはない。オニカナワラビに似るが、葉質はより薄く、やわらかい革質、裂片の先の棘は長さ約1mmでのぎ状に顕著に伸びる。

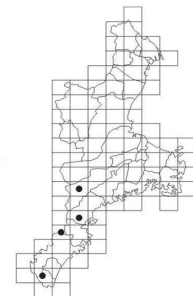
【分布】 紀伊半島、山口県、四国、九州。県内では紀宝町、尾鷲市又口川上流、紀北町、大台町に分布。

【現況・減少要因】 植林の林床および林縁にあり、植林の伐採などで減少あるいは消滅の可能性がある。また、採取されることも考えられる。

【保護対策】 開発や森林の伐採を避け、また園芸採取されないよう生育地の保護が必要である。

(山脇和也)

(写真：紀北町，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イズヤブソテツ

Cyrtomium atropunctatum Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、もともと個体数の少ないシダである。

【種概要】ツクシヤブソテツとヤブソテツの中間の外形を呈する。羽片は8～19対、中部まで同幅でそれから先が細まる。羽片の基部は楔形で耳状突起が出ない。包膜は中心が黒点状。

【分布】国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布し、県内では尾鷲市と熊野市に記録されている。

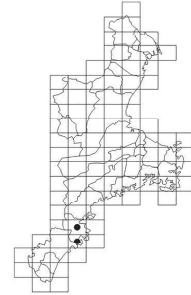
【現況・減少要因】1990年以降の記録がない。林道、砂防堰堤等の建設による生育地の環境破壊によるものと考えられる。

【保護対策】絶滅の可能性があり、現地周辺の調査が急務。林道開設、森林伐採等の開発行為は避ける。

【文献】80, 115.

(大洞浩一)

(写真：和歌山県，1978年，宮崎弘規採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

オオミネイワヘゴ

Dryopteris lunanensis (H.Christ) C.Chr.

シダ植物 オシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数は少ない。

【種概要】常緑性。イワヘゴに似るが、羽片の切れ込みは深く、浅裂から中裂、羽片基部ではほとんど全裂となり、小羽片ができることもある。孢子嚢群は羽軸の両側に羽軸寄りに1列に並ぶ。包膜はほぼ全縁。

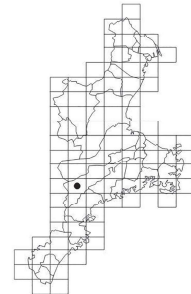
【分布】本州（奈良県、三重県）の山地で斜面の林中に生じるが、産地が局限され個体数も少ない。県内では大台町からの標本記録がある。

【現況・減少要因】大台町のヒノキ林内に生育するが、個体数は数個体しか確認されていない。ニホンジカによる食害が顕著で、以前に比べ個体数は激減している。また、マニアの乱獲による絶滅も危惧される。

【保護対策】ニホンジカへの対策や治山工事による影響を避けることが必要。また森林施業にあたっては生育地の環境を破壊しないような対策が必要である。

(山本和彦)

(写真：大台町，2023年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

アツギノヌカイトチシダマガイ

Dryopteris paomowanensis Ching et Z.Y.Liu

シダ植物 オシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。個体数は各生育地ともに極めて少ない。

【種概要】やや乾燥した低山地に生育する常緑性のシダ植物。葉はやや厚い紙質で、通常3回深裂する。葉柄には膜質褐色で、縁の突起が不明瞭な鱗片が多く着く。羽片や小羽片の柄は極短く、軸にほぼ直角に着く。ソーラス（孢子嚢群）の位置は中間生。ヌカイトチシダよりもサイゴクベニシダ的になるが、サイゴクベニシダは通常2回羽状複生でソーラスの位置は辺縁寄り。羽片や小羽片の柄は70～80度に着く。

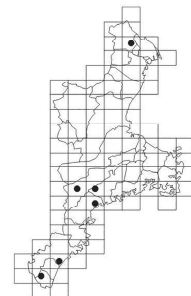
【分布】東海以西の本州・四国に分布。県内では桑名市・大台町・紀北町・御浜町・紀宝町で記録がある。国外では中国。

【現況・減少要因】比較的安定した環境下に生育している。植生遷移が減少要因。

【保護対策】植生遷移の進行に注意を要する。

(市川正人)

(写真：桑名市，2014年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

マルバヌカイタチシダモドキ
Dryopteris tsuguiwoi Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。各地点の個体数は極めて少ない。

【種概要】常緑性のシダでマルバベニシダとヌカイタチシダモキの中間的な特徴を持つ。羽片は中軸にほぼ直角につき、柄はヌカイタチシダモドキに似て短い。胞子嚢群はマルバベニシダに似て軸寄りにつく。鱗片は披針形全縁で茶褐色から黒褐色である。固有種。

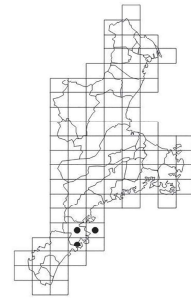
【分布】紀伊半島・四国・九州に記録がある。県内では尾鷲市内数か所と熊野市1か所で生育が確認されている。

【現況・減少要因】個体数は少なく、著しく減少傾向にある。森林伐採が減少要因となる。

【保護対策】個体数が極めて少なく、他のベニシダ類と混在して目立たないの
で、森林伐採に際して、事前に注意が必要である。

(市川正人)

(写真：紀北町，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

ヒロハヒメウラボシ

シダ植物 ウラボシ科

Oreogrammitis nipponica (Tagawa et K.Iwats.) Parris

【選定理由】既知の生育地点数は3以下であり、最近では1か所現認されているだけである。

【種概要】陰湿な岩上や樹幹に着生する。ヒメウラボシに似ているが、それより大形で葉は5~10cm。葉身が広披針形である。胞子嚢に長い毛が目立つ。

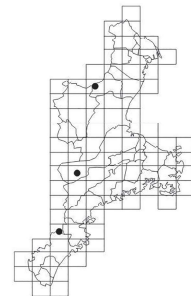
【分布】本州（静岡県以西）、四国、九州に点在し、伊豆七島にも分布する。県内では、亀山市関町、尾鷲市に記録があるが、最近松阪市で確認されている。

【現況・減少要因】自生地周辺の植生遷移による環境変化が減少の要因と考えられる。

【保護対策】原生林の伐採をなくし、保護することが大切である。

(南 正祝)

(写真：尾鷲市，1983年，大洞浩一採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イワオモダカ

シダ植物 ウラボシ科

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching

【選定理由】標本記録による既知の生育地点は5ヶ所。現状不明で絶滅したものと考えられていたが、最近になり大台町で新産地が発見された。個体数は50未満と思われる。

【種概要】常緑性の多年草。根茎は短く這い接近して葉をつける。葉は長さ10~40cmで、葉柄が葉身より長い。葉身は3~5裂する。葉裏は褐色の星状毛で蜜に覆われる。

【分布】北海道から九州、朝鮮半島南部に分布。県内ではいなべ市、名張市、松阪市での記録があるが、現状不明であった。2006年に大台町で発見され、さらに2013年にも同町内の別な地点で確認されている。

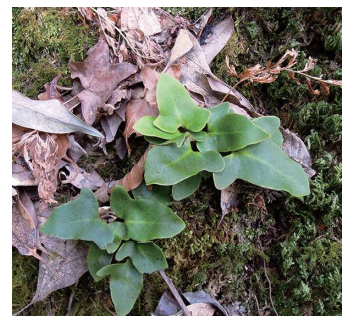
【現況・減少要因】岩場や樹幹状に生育。古くから園芸目的で栽培され、野生で発見されればすぐ採取されてしまうため、常に絶滅の危機に瀕している種である。

【保護対策】自生地の公表は避けるなど、人為による採取圧の排除が必要であるが、乱獲を止めるのは難しい。

【文献】39, 73.

(山本和彦)

(写真：大台町，2013年，廣達也撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤクシマウラボシ

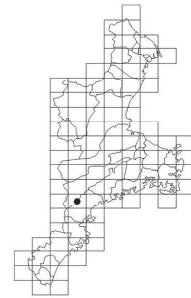
シダ植物 ウラボシ科

Selliguea yakuinsularis (Masam.) H.Ohashi et K.Ohashi

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、現況は不明である。
 【種概要】 夏緑性。根茎は横走し、鱗片を密につける。葉柄は細く、長さ4～8 cm、無毛で光沢がある。葉身は羽状深裂し、側裂片は3～5対、線状披針形、鈍頭、幅8～14 mm。葉質はやや薄い紙質。孢子嚢群は裂片のやや辺縁寄りに並び、円形、径約2 mm。
 【分布】 屋久島のほか徳島県、高知県、和歌山県、三重県に産する。コケに覆われた樹幹や岩上に着生する。県内では唯一紀北町内からの標本記録がある。
 【現況・減少要因】 本種は、紀北町赤羽川奥の尾根筋岩上で、1976年に樋口雄一氏により発見された。その後数年は確認されていたが、生育地が深山ということもあり、近年の情報はない。しかしながら、発見当時の生育状況の聞き取りから判断して、自生地およびその周辺で、個体数は維持されているものと思われる。
 【保護対策】 今後の精査が必要。生育地の公表を避けるとともに、自生地周辺の伐採作業を避けることが必要。

(山本和彦)

(写真：紀北町，1981年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	EN

キレハオクボシダ

シダ植物 ウラボシ科

Tomophyllum sakaguchianum (Koidz.) Parris

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数は100未満と少ない
 【種概要】 小形の常緑性シダ。葉は長さ4～8 cm、幅5 mm程度、羽状に全裂し、両面にまばらに長毛をつける。葉脈は明瞭。
 【分布】 日本固有種。秩父地方、山梨県、長野県、静岡県、紀伊半島（奈良県、三重県）、九州（五家荘）に分布。森林内の樹上や岩上にコケと混生する。県内では、大台町の深山に生育する。
 【現況・減少要因】 大台町宮川の1地点しか確認されていない。個体数は60個体ほどと少なく、同一箇所に集中して生育。過去には付近で500個体ほどの群落もみられたが、乱獲等により消失。
 【保護対策】 生育地は国立公園内にあるため、開発等の危険性は少ない。それよりもマニアによる採取が致命的である。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。

(山本和彦)

【文献】 37, 94.

(写真：大台町，2018年)



三重県 2025	CR
三重県 2015	CR
環境省 2020	EN

ヤチスギラン

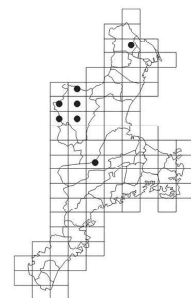
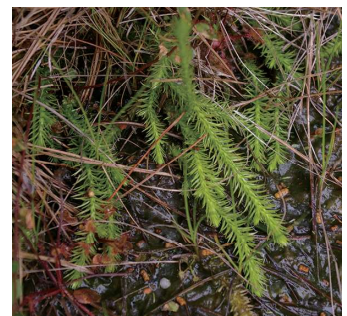
シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Lycopodiella inundata (L.) Holub

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下で、湿地という最も開発圧の高い環境に生育している。地域固有性も極めて強い。
 【種概要】 湿地の裸地に地表を這って生育し、まばらに分岐する。孢子嚢は穂になって直立する。夏緑性で茎の先端部のみが越冬し、他は枯れる。
 【分布】 中国、北アメリカ、ヨーロッパ。国内では、北海道、本州（近畿地方北部）。県内では伊賀市の湿地に集中して分布しているが、桑名市、津市での記録もある。
 【現況・減少要因】 桑名市、津市は絶滅した可能性が高い。伊賀市のある湿地では、周辺部で粘土の採掘が行なわれて、地下水が全部切られた崖から流出し、湿地全体が乾燥化した。この湿地では著しく減少している。
 【保護対策】 生育地が保護されても、それを取り巻く水系（地下水）が確保されない限り、乾燥化は防げない。過去の失敗は地下水の流れまで注目していないことに起因していることが多い。

(加田勝敏)

(写真：伊賀市，2023年，市川正人撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

ナンカクラン

シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Phlegmariurus hamiltonii (Spreng.) A. et D. Löve

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。強い採取圧により、過去10年間で30%以上個体数が減少していることからVUからENに変更となった。

【種概要】樹幹または岩上に着生、下垂または斜上する常緑のシダ植物。茎は基部で又状分岐、長さ数cm程度から長いものは20~40 cmのものもある。

【分布】本州南部（伊豆諸島・紀伊半島）以南、小笠原列島、沖縄にいたる各地。国外では中国南部、台湾、ヒマラヤ、インドシナ半島、マレーシアに分布。県内では度会町、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布。

【現況・減少要因】採集圧力が極めて強く、各生育地で年々減少している。

【保護対策】生育地の公表は避けるとともに、愛好家による乱獲の防止対策をはかる。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：御浜町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヤマクラマゴケ

シダ植物 イワヒバ科

Selaginella tamamontana Seriz.

【選定理由】既知の生育地点数は1であるが、未知の生育地があると思われる。

【種概要】タチクラマゴケに形質、性質ともによく似ている常緑性のシダ。タチクラマゴケが草地に生育するのに対し、やや乾燥した石灰質の岩棚などを好む。栄養葉、孢子葉ともに2形であり、孢子嚢穂は他の部分と比べて明確には区別できない。固有種。

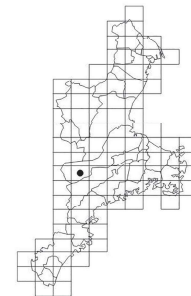
【分布】本州（関東地方・紀伊半島）・四国。県内では松阪市。

【現況・減少要因】松阪市飯高町のやや乾燥した岩棚に生育している。

【保護対策】深山中人手が加わるようなところではなく、現在は安定しており、生育地の環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)

(写真：松阪市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アカハナワラビ

シダ植物 ハナヤスリ科

Botrychium nipponicum Makino

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、個体数は少ない。平坦な場所に生育し環境が破壊されやすい。

【種概要】夏から秋まで緑色で冬は両面赤変する。孢子は平滑で裸葉の小羽片は尖る。

【分布】朝鮮半島、中国。国内では本州（宮城県以南）、四国、九州に分布し、県内では松阪市、度会町で記録がある。

【現況・減少要因】県内の現状は不明である。道路建設等による生育地の破壊が減少要因であろう。

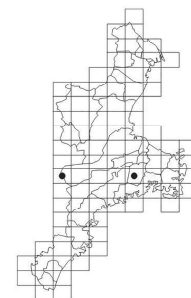
【保護対策】生育地周辺の道路建設等は事前の調査が必要である。

【特記事項】アカハナワラビによく似たアカフユノハナワラビが熊野市に生育が確認された。

【文献】80。

(大洞浩一)

(写真：松阪市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハマハナヤスリ

Ophioglossum thermale Kom.

シダ植物 ハナヤスリ科

【選定理由】既知の生育地点数は5か所程度。シカによる食害、マニアによる採取、開発にともなう生育環境の変化等により個体数は減少している。

【種概要】冬期には地上部が枯れる小型のシダ植物。日当たりのよい砂地や草地に自生。栄養葉と孢子葉があり、栄養葉は線形から長楕円形、基部はしだいに細くなり、孢子葉柄と合体する。葉の高さ7~20 cm。

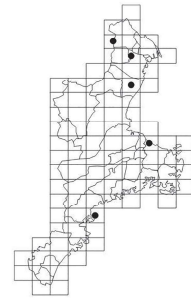
【分布】国内では北海道から琉球、国外ではシベリアから台湾、南洋諸島等に分布。県内では藤原町、大安町、鈴鹿市、伊勢市、尾鷲市からの記録がある。

【現況・減少要因】伊勢市では、溜池改修の影響により絶滅。またニホンジカの食害による減少も著しい。尾鷲市の自生地では、2000年前後からニホンジカの食害により減少しだし、現在では周辺域の他の草本植物も含め、植生が消滅している状況である。

【保護対策】防鹿柵設置等、食害を防ぐ対策が必要。

(写真：尾鷲市，1998年)

(山本和彦)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヒロハハナヤスリ

Ophioglossum vulgatum L.

シダ植物 ハナヤスリ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。群生する性質があるが個体数は少ない。

【種概要】春から夏にみられるシダである。担葉体は2~15 cm、栄養葉は1枚で長さ6~12 cm、基部にはほとんど柄がなく、孢子葉の柄を包むようにつく。葉脈は細かい網目状で2次細脈もはっきりしている。孢子葉は普通10~20 cmである。

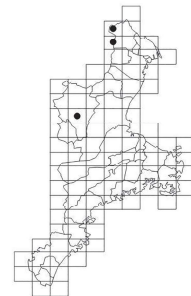
【分布】北海道~九州に生育。県内ではいなべ市、伊賀市に記録がある。国外では北半球温帯地域。多少の湿り気があればそれほど環境に左右されない。

【現況・減少要因】伊賀市の上野森林公園内の路傍で確認されているが、生育場所から道路改修や踏み付けが減少要因となる。また、いなべ市の高所ではシカの食害が認められる。

【保護対策】土地造成・道路工事を避け、シカ防護柵設置で食害から保護する。

(写真：津市，2008年，松本功採集，三重県総合博物館所蔵)

(市川正人)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

チチブホラゴケ

Crepidomanes schmidtianum (Zenker ex Taschner) K.Iwats. var. *schmidtianum*

シダ植物 コケシノブ科

【選定理由】既知の生育地点数は1である。

【種概要】アオホラゴケに似るが、葉に偽脈がなく、葉柄に翼がない。深山の石灰岩の壁面に着生する。

【分布】ヒマラヤ、中国、台湾。国内では本州（北関東以西）、四国、九州、県内では大台町に分布する。

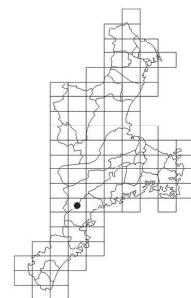
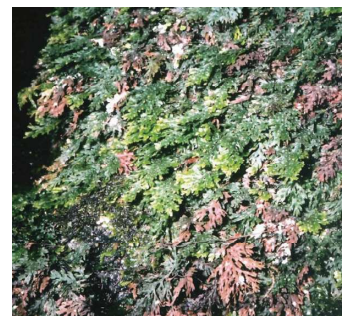
【現況・減少要因】生育場所は僅かに大台町にのみ記録されているが、現状不明である。森林伐採等の環境変化により絶滅のおそれがある。

【保護対策】生育場所を広く森林伐採から守り、保護する必要がある。生育地の調査が必要。

【文献】80.

(写真：奈良県，2007年，市川正人撮影)

(大洞浩一)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

デンジソウ

シダ植物 デンジソウ科

Marsilea quadrifolia L.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、安定した生育地はない。

【種概要】 水湿地に根茎を引いて生育する水生のシダで、小葉4枚が十字状につく。冬は地上部が枯れる。

【分布】 朝鮮半島、中国、アジア東部、インド、ヨーロッパ。国内では、北海道（北見以南）、本州、四国、九州、沖縄。県内では桑名市、四日市市、菰野町、伊賀市、津市、伊勢市、志摩市から記録されている。

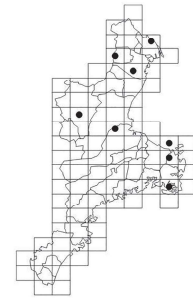
【現況・減少要因】 伊賀地域ではゴルフ場造成で絶滅したが別の地点で再確認された。他地域では現在2か所で生育が確認されるのみである。水田・池沼などの極めて開発圧の強い環境に生育しているために、近い将来絶滅が危惧される。

【保護対策】 最も開発の危険性の高い環境にあるため、一般への啓発活動を強化して、理解を求める必要がある。

【文献】 34, 41, 43, 69, 73, 85.

(加田勝敏・山本和彦)

(写真：いなべ市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

クサマルハチ

シダ植物 ヘゴ科

Cyathea hancockii Copel.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、人為による生育環境の悪化がみられる。さらに近年ではニホンジカの食害が顕著となり、消滅寸前の生育地も出現し、個体数は激減している。これらのことからVUからENへとカテゴリーが変更となった。

【種概要】 常緑性シダ。根茎には、葉柄の下部とともに、褐色で光沢のある細い鱗片がある。葉柄は葉身とほぼ同じ長さ。基部は直径1cmばかりで赤褐色または、紫褐色の光沢がある。

【分布】 三重県南部、和歌山県南部、高知県南部、宮崎県南部、鹿児島県南部。県内では紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布する。

【現況・減少要因】 山林伐採による環境悪化およびニホンジカによる食害が主たる減少要因。また、園芸用の採取もある。

【保護対策】 マニアによる乱獲を防ぐためにも、生育地の公表は避けるべきである。ニホンジカの食害対策も重要である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：紀北町，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

サイゴクホングウシダ

シダ植物 ホングウシダ科

Osmolindsaea japonica (Baker) Lehtonen et Christenh.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下、採取圧があり、生育環境は不安定である。

【種概要】 常緑性シダのホングウシダに似るがはるかに小さく、山地溪流の湿った岩上に生え、葉柄は2~5cmでほとんど紫褐色。葉身は長さ3~7cm、巾1~2cmで先端は尖らない。羽片全体の形は斜め三角形になる。

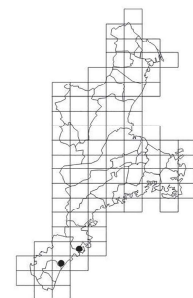
【分布】 紀伊半島南部、九州、沖縄。県内では紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

【現況・減少要因】 園芸用の採取と、河川の氾濫による岩石の移動が減少につながる。

【保護対策】 洪水による溪流の転石対策は困難なため、残された生育地の環境を保護することが課題である。また、採取防止対策も必要である。

(花尻 薫)

(写真：尾鷲市，1983年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ナカミシラン

シダ植物 イノモトソウ科

Haplopteris fudzinoi (Makino) E.H.Crane

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。森林伐採にともなう生育環境の悪化やマニア等の採取による減少が懸念される。

【種概要】 深山の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ植物。シシランによく似ているが、葉の表面に2条の溝があるのが特徴。胞子嚢群は葉縁と中肋の中間にある溝の中につく。

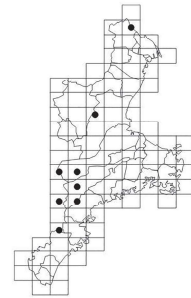
【分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州、中国南西部に分布。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市、大台町、熊野市等から記録されている。

【現況・減少要因】 空中湿度の高い森林内や渓谷沿いの岩上や巨木樹幹上に着生し、小群落を作る。県内の自生地ではいずれも稀にしか見ることができない。森林伐採による環境の変化や採取により減少している。

【保護対策】 森林伐採の規制、渓谷の護岸工事や砂防堰堤建設時には自生地が消失しないような配慮が必要。

(山本和彦)

(写真：大台町，2016年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ハチジョウシダ

シダ植物 イノモトソウ科

Pteris fauriei Hieron.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下である。強い採取圧により激減している。

【種概要】 常緑性シダ。樹陰に生じ、陰湿な場所にはみられない。根茎はやや太く斜上する。葉は長さ1mに達する。葉柄は葉身より長く、基部の太さが直径5mmを超えることもある。葉は洋紙質またはほとんど革質。

【分布】 伊豆諸島、紀伊半島東南部および南部、四国、九州。県内では南勢（南伊勢町）、紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

【現況・減少要因】 マニアなどの乱獲により、根茎まで採取され生育地が荒廃し、絶滅に近い。

【保護対策】 現状のままでは絶滅のおそれがあり、柵を設けるなどの採取防止対策が必要である。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，1984年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

非公表

エヒラシダ

シダ植物 ナヨシダ科

Gymnocarpium oyamense (Baker) Ching

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は少なく、生育地面積も極めて狭い。

【種概要】 夏緑性小型のシダで根茎は細く長く這う。葉身は淡緑色で単羽状深裂し軸折れする。羽片は羽状に浅・中裂する。鱗片は薄い膜質で葉柄基部にある。胞子嚢群に胞膜はなく羽片中に2列に散在する。

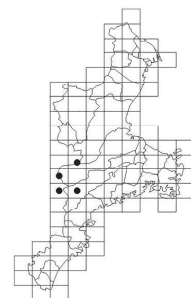
【分布】 本州（関東地方から近畿地方）・四国の深山溪流近くの斜面や岩などに生える。県内では津市・松阪市・大台町に記録がある。国外ではネパール・中国・台湾・フィリピン・ニューギニア。

【現況・減少要因】 津市・松阪市・大台町で生育している。深山の安定した大きな岩の壁下などにみられる。採取が減少要因となる。

【保護対策】 生育地点数、個体数ともに少ない。採取からの保護が必要である。

(市川正人)

(写真：松阪市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

カミガモシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Asplenium oligophlebium Baker var. *oligophlebium*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下と少なく、神社林に生育していることが多い。

【種概要】 暗い林内の木の根や岩にかぶさるように生育する。羽片は長い直角三角形、基部は切形、耳垂はよく発達している。

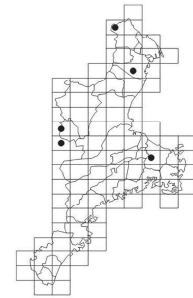
【分布】 日本固有種。本州（新潟県、岐阜県以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、伊賀市、名張市、伊勢市に生育の記録がある。

【現況・減少要因】 名張市、伊勢市では神社林にまとまって生育している。減少要因は不明であるが、もともと生育地が少ない。

【保護対策】 生育地は神社林が中心であるので伐採される心配は少ない。しかし、人の出入りが多いので採取によって減少することのないよう注意をする必要がある。

(山路武夫)

(写真：名張市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

オクタマシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Asplenium pseudowilfordii Tagawa

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点における個体数は極めて少ない。

【種概要】 アオガネシダに似た常緑性のシダである。葉身は革質で2～3回羽状で切れ込みが少なく浅い。広披針形から狭五角形で両側がほぼ平行的である。トキワシダにも似ているが、これは1回羽状である。固有種。

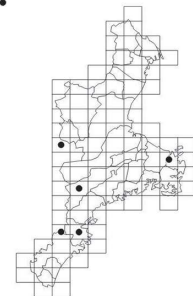
【分布】 本州（福島県・関東から近畿地方・広島県・山口県）・四国（南部）・九州（宮崎県）の山林中のやや陰湿な岩上や樹幹に生育。県内では名張市・大台町・伊勢市・尾鷲市・熊野市で記録されている。

【現況・減少要因】 個体数は少なく、とくに森林伐採による乾燥化が問題となる。

【保護対策】 生育地の皆伐をやめ、生育地の陰湿な環境を残すことが必要である。

(市川正人)

(写真：大台町，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

イチョウシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Asplenium ruta-muraria L.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各地点とも個体数は少ない。

【種概要】 小型で常緑性、好石灰岩性のシダ植物である。小さな塊状の根茎から少数の葉を叢生。葉はやや硬い草質、長さ4～8cmほどの小形で2回または単羽状に分かれ、小羽片はイチョウの葉の形に似る。胞子のう群は長さ1～3mmで線形。胞子は夏の早い時期に熟す。

【分布】 国内では北海道から九州までの、比較的日当たりの良い山地の石灰岩地の岩上・岩隙に生育する。国外では北半球の冷温帯。県内では鈴鹿山脈北部（いなべ市）に分布する。

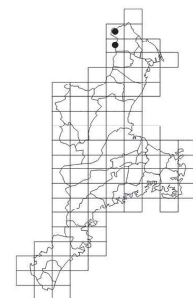
【現況・減少要因】 もともと生育地が局限されている種であり、石灰岩採掘による生育地の崩壊、また、採取圧により減少し絶滅の危機にある。

【保護対策】 生育地周辺の石灰岩の採掘を中止し、種の保全に努めるべきである。採取圧については取締りが必要である。分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

【文献】 34, 49, 51, 59.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオハシゴシダ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris angulariloba Ching

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は250未満と少ない。森林の伐採や開発により消滅した生育地もある。

【種概要】常緑性で、湿って暗い林内にややまれに生じる。根茎はやや太く短くはう。葉柄は長さ約30 cmで葉身とほぼ等長、最基部には長い毛が密生する。葉身は広披針形。

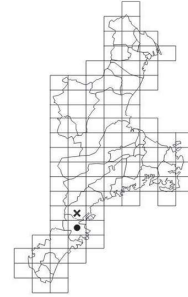
【分布】本州（紀伊半島）、四国南東部、屋久島、沖縄。国外では中国南部、台湾。県内では、紀州に分布。

【現況・減少要因】尾鷲市で2か所、紀北町で1か所記録があるが、紀北町の生育地では開発により消滅した。尾鷲市でも森林の伐採により激減したか、一部が消滅したものと思われる。

【保護対策】生育場所を開発と森林伐採から守り、保護する必要がある。

(山脇和也)

(写真：尾鷲市，2017年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヨコグラヒメワラビ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris hattorii (H.Itô) Tagawa

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は非常に少ない。環境の変化やマニア等の採取によって絶滅の可能性がある。

【種概要】夏緑生。葉は三角形。2回羽状複生。下部羽片は明らかな柄がある。ツクシヤワラシダによく似るが、葉柄、中軸、羽軸の両面に短毛が密生する。

【分布】中国。国内では本州（岐阜県以西）、四国、九州に分布し、県内では大台町、熊野市に記録がある。

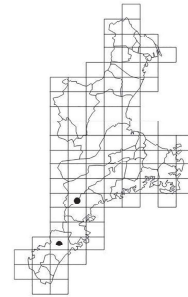
【現況・減少要因】1990年以降、県内では記録がない。過去に大台町2、熊野市1か所の記録はあるが現状不明である。道路などの建設により生育場所が失われている。

【保護対策】生育地周辺の森林伐採、道路建設の開発行為は避ける。生育地の新たな調査も必要。

【文献】80, 115.

(大洞浩一)

(写真：愛知県，1987年，福原稔採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

テツホシダ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris interrupta (Willd.) K.Iwats.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。埋め立て等の環境変化やシカ食害により急激に減少した。

【種概要】海岸や湖沼周辺の日当たりの良い湿地に生える。暖地では常緑性だが三重県では夏緑生。根茎は長く横走り、群生する。葉は長さ40~80 cm、葉質はやや硬い革質で葉面は無毛。

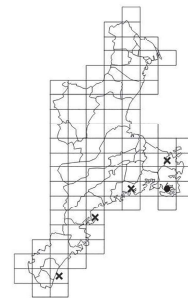
【分布】本州南部（静岡県、愛知県、紀伊半島、福井県、島根県）、四国南東部、九州、沖縄。世界の熱帯、亜熱帯地域。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、紀宝町に分布。

【現況・減少要因】南伊勢町の生育地は埋め立てられたことにより消滅した。尾鷲市ではニホンジカの食害により消滅している。現在、生育が確認できるのは志摩市の1か所であるが、生育地の一部が埋め立てにより減少している。

【保護対策】開発等にあたっては、事前の調査と保全対策が必要である。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：志摩市，2018年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ミヤマワラビ

シダ植物 ヒメシダ科

Phegopteris connectilis (Michx.) Watt

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。大台ヶ原の標高1,000 m以上一帯にしかみられず、個体数も多くない。

【種概要】落葉広葉樹林の林床の腐植土の多いところに生育する。夏緑性で根茎は地上や岩上を長く這い、群生する。葉は2回羽状、上部の羽片の基部裂片は中軸に流れる。葉柄は葉身より長い。葉身は三角形から卵状三角形。

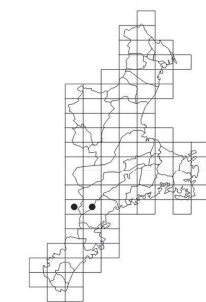
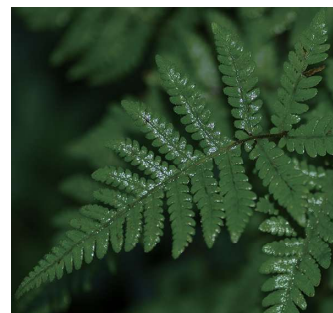
【分布】北海道、本州（中部地方以北）ではやや普通。それより西では紀伊半島大峰山系、中国山地、四国山地、九州（祖母山・屋久島高所）。県内では大台町大台ヶ原に分布。

【現況・減少要因】国立公園内にあり開発等からは保護されている。ニホンジカの食害による個体数の減少が考えられる。

【保護対策】生育地のニホンジカの食害からの保護が必要である。

(山脇和也)

(写真：大台町，2006年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヒロハノコギリシダ

シダ植物 メシダ科

Diplazium dilatatum Blume var. *dilatatum*

【選定理由】既知の生育地点数は3ヶ所、成熟個体数はいずれも50未満。

【種概要】葉身の長さは1 mをこえる大型の常緑性シダ。根茎は太く、短く直立する。葉柄も長く、基部は親指くらいの太さとなり、黒褐色で突起のある鱗片をつける。

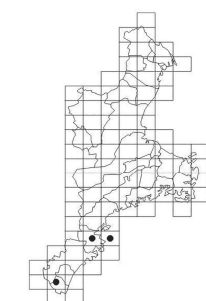
【分布】八丈島、紀伊半島南部、高知県、九州（南部および五島列島）、沖縄。国外では台湾、中国南部、インドシナ半島に分布。県内では尾鷲市と紀宝町から記録されている。

【現況・減少要因】尾鷲市の自生地は九木崎の1ヶ所であったが、最近市内の山林下で新産地が確認されている。隣県の和歌山県でも新産地が見つかり、分布域が拡大傾向にある。今後、県内の他地域から発見される可能性も高いと思われる。

【保護対策】九木崎の自生地は、「九木崎樹叢」として三重県の天然記念物に指定されていることもあり、開発等の危険性は少ないと思われる。紀宝町の自生地はスギ人工林内であるため、伐採等により消滅する可能性が高く、山林所有者の理解を得る必要がある。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2024年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カツモウイノデ

シダ植物 オンダ科

Ctenitis subglandulosa (Hance) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育面積は狭く、個体数も少ない。

【種概要】常緑性で山地の林下にしばしば群生する。根茎は斜上。葉柄基部には黄褐色でふさふさした毛状鱗片が密生する。葉は3～4回羽状、表面には多細毛があり、裏面はやや白緑色。

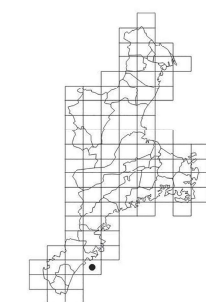
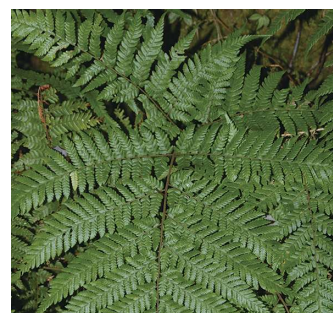
【分布】本州（千葉県、伊豆半島、伊豆諸島、紀伊半島南部、島根県）、四国南部、九州、沖縄。台湾、フィリピンなど広くアジアに分布。県内では、熊野市のみに記録がある。

【現況・減少要因】紀伊半島では北限となる熊野市に1か所生育地がある。約35個体と少なく、植林木が伐採されたり、生育地が開発されると消滅の可能性が高い。

【保護対策】近くに道路が開通したので、これ以上の開発は抑止したい。

(山脇和也)

(写真：熊野市，2008年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツクシヤブソテツ

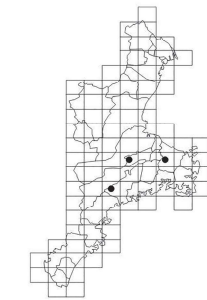
シダ植物 オシダ科

Cyrtomium tukusicola Tagawa

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満しかない。
 【種概要】 ヒロハヤブソテツに似るが、側羽片は6~10対、幅がやや狭く、基部は円みをもたず、広くさび形、上部の羽片はしだいに小さくなり、頂羽片も小さい。包膜には鈍鋸歯があり中心部は黒褐色になる。
 【分布】 本州（栃木県、千葉県以西）、四国、九州に分布。県内では伊勢市、大台町、多気町からの記録がある。
 【現況・減少要因】 伊勢市、大台町では1980年前後に、多気町では1994年に採集され、標本は大阪自然史博物館に収められている。その後県内での分布情報は無いが、自生地にはまだ何個体か残っているものと思われる。谷沿いのスギ、ヒノキ林下に生育している。林道工事や森林伐採により生育地が攪乱されるおそれがある。
 【保護対策】 自生地周辺の森林環境を保全することが必要である。

(山本和彦)

(写真：伊勢市，1983年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

ツクシイワヘゴ

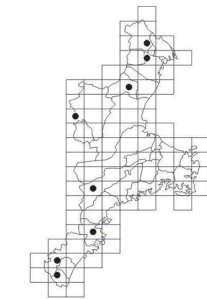
シダ植物 オシダ科

Dryopteris commixta Tagawa

【選定理由】 既知の生息地点数が10以下であり、各地点における個体数は少ない。
 【種概要】 常緑性のシダでイワヘゴに似ているが羽片数は20対以下と少なく、節間は下ほど広くなる。包膜は小さく目立たない。葉柄の鱗片は光沢がなく黒褐色から淡黒色である。固有種。
 【分布】 イワヘゴと同じような環境に生じ、本州・四国・九州。県内ではいなべ市・菰野町・亀山市・伊賀市・大台町・尾鷲市・熊野市・紀宝町で記録されている。
 【現況・減少要因】 県内に広く分布するが、消滅地も確認されている。森林伐採や開発圧力が減少要因となる。
 【保護対策】 森林伐採にともなう乾燥化に注意を払う必要がある。

(市川正人)

(写真：紀宝町，1975年，大洞浩一採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

タカサゴシダ

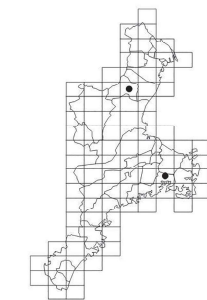
シダ植物 オシダ科

Dryopteris formosana (H.Christ) C.Chr.

【選定理由】 既知の生育地点数は2であり、いずれの生育地でも個体数はそれほど多くない。
 【種概要】 葉身は三角形状で羽片の先はホコ状になり、葉柄の鱗片は黒褐色になる。羽軸や小羽軸の下面に袋状鱗片がある。最下羽片の下向き第一小羽片は第二小羽片よりもはっきりと大きく、列片の鋸歯は鋭く尖る。
 【分布】 フィリピン、台湾。国内では本州（静岡、紀伊半島、山口）、九州、徳之島に分布し、県内では亀山市、伊勢市で記録がある。山地の樹林下の地面に生える。
 【現況・減少要因】 亀山市、伊勢市のいずれの生育地も神社の所有する土地の中にあり、開発行為から保護されているが、森林伐採や気候変動による生育環境の変化で減少する可能性がある。
 【保護対策】 生育地周辺の森林伐採を避ける。

(南 正祝)

(写真：亀山市，2004年，市川正人撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	NT

クロミノイタチシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris melanocarpa Hayata var. *melanocarpa*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】葉は卵状五角形から卵状三角形。最下羽片はとくに大きいことはなく、柄はより短く1~1.5 cm。葉柄は濃褐色で光沢がある。葉柄基部の鱗片は長さ4~10 mm、暖地にまれに生える。

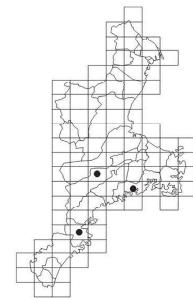
【分布】本州（南部の暖地）、四国、九州の低山地の林中。県内では南勢と紀州に分布。

【現況・減少要因】尾鷲市、大台町、南伊勢町にそれぞれ1か所ずつ記録がある。林道工事や採取による減少が考えられる。

【保護対策】周りの環境も含めて生育地一帯を保護すべきであろう。

(山協和也)

(写真：和歌山県，2007年，市川正人撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ムラサキベニシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris purpurella Tagawa

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】葉身は長さ40 cmほどになる常緑性シダ。葉柄や中軸、羽軸が紫色を帯びる。若葉も紫色となるが、成葉は淡い緑色。鱗片は黒色。

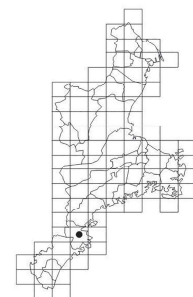
【分布】本州（紀伊半島、広島県厳島）、四国南西部、九州、沖縄（石垣島）に分布。県内では尾鷲市のみにもみられ、山地の林下に生育する。

【現況・減少要因】尾鷲市周辺の3か所の山地で確認されており、今のところ他では記録されていない。いずれも溪流に近いやや乾燥した植林地の林下に生育。道路拡幅や伐採による生育環境の改変による減少が懸念される。

【保護対策】適切な造林地の管理と保全が必要である。道路拡幅についても注意が必要。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2017年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アスカイノデ

シダ植物 オシダ科

Polystichum fibrillosopaleaceum (Kodama) Tagawa

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育個体数は極わずかである。

【種概要】葉柄の鱗片はアイアスカイノデよりさらに細かい。葉柄中軸下部の鱗片は毛状、下部につく大きな鱗片は披針形から狭披針形でほとんど鋸歯がなく、乾燥するとねじれる。大形のシダで大きな葉は1 mを越える。固有種。

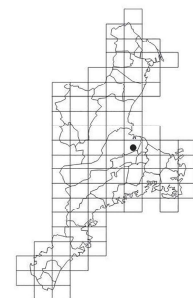
【分布】本州（東北地方から中部地方・三重県・奈良県・和歌山県・高知県）に分布する。県内では松阪市だけに記録がある。

【現況・減少要因】本種の生育する林の環境が改変され、乾燥化が進み、個体数は激減した。雑種が混生しており、正しい個体数の把握は困難である。

【保護対策】生育環境の再現とその保全を要する。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：松阪市，1981年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

チャボイノデ

シダ植物 オシダ科

Polystichum igaense Tagawa

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満であったが、近年絶滅に瀕しているため、従前のVUから新カテゴリーはENに変更した。

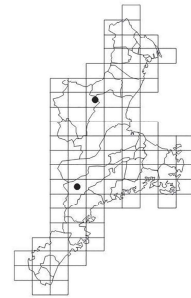
【種概要】イノデモドキに類似するが、全体やや小形で葉は地に着くように開出して出る。葉柄部が著しく短く、中軸の鱗片は捩じれる。固有種。

【分布】本州（栃木県以西）・四国・九州。県内では、伊賀市・大台町に記録されている。

【現況・減少要因】繁殖能力が弱く個体数が少ない。いずれの生育地もわずかな個体数である。林道工事や山林伐採が減少要因となる。

【保護対策】土木関連業者や森林作業員への周知徹底と啓発が必要である。
(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊賀市，1991年，百永章採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アオネカズラ

シダ植物 ウラボシ科

Goniophlebium niponicum (Mett.) Bedd.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は250未満である。採集圧が極めて強い。

【種概要】山地の岩上や樹幹に着生するシダで、夏に落葉して休眠する。葉は細かい軟毛で密におおわれている。

【分布】中国。国内では本州、四国、九州に分布。県内では松阪市、大紀町、大台町、名張市、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町などから記録されている。

【現況・減少要因】園芸目的による採取が最大の減少要因で、発見されたらまず採られるので、減少の一途をたどっている。

【保護対策】採取から守ること以外に方法はなく、分布情報の公表にあたっては、慎重な配慮が必要である。

(加田勝敏)

(写真：松阪市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

スギラン

シダ植物 ヒカゲノカズラ科

Phlegmariurus cryptomerinus (Maxim.) Satou

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、いずれの地点も個体数はきわめて少ない。マニアや園芸業者等による採取圧が強く、また、限られた環境に生育し、環境の変化に弱い。

【種概要】全体がスギ葉を思わせる形態で、孢子嚢は上部に集まってつく。山林下の陰湿な樹幹や岩上に着生する。

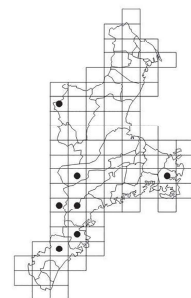
【分布】インド、朝鮮、台湾。国内では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では伊賀市、松阪市、大台町、南伊勢町、尾鷲市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】大台町、松阪市は現在も健在であるが、伊賀市、南伊勢町、尾鷲市、熊野市の現況は不明である。マニアや園芸業者等の採取、森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。

【保護対策】マニアや園芸業者等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。

(加田勝敏・山本和彦)

(写真：大台町，2005年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ミズニラ

シダ植物 ミズニラ科

Isoetes japonica A. Braun

【選定理由】既知の生育地点数は約15か所であり、マニアや園芸業者などの採取があり、環境変化や開発行為がおりやすい場所に生育している。

【種概要】水生で、短い茎から細長い葉が束生する。大胞子の表面にハチの巣状の網状突起があり、小胞子の表面は平滑か少数の低いこぶ状突起がある。

【分布】中国、韓国、国内では本州、四国に分布。県内では鈴鹿市、伊賀市、津市、明和町、伊勢市、南伊勢町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、御浜町で記録がある。溜池の浅瀬や水のたまった放棄水田などに生育する。

【現況・減少要因】過去には各地で記録があるが、現状では不明な所が多い。明和町、伊勢市、南伊勢町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、御浜町等で現認されている。マニア等の採取、池や水田の放棄後の遷移による生育環境の変化、溜池改修や埋め立てによる生育地の破壊、富栄養化や除草剤による水質悪化で減少している。

【保護対策】マニア等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育環境を変化させたり、生育地を破壊する行為を避ける。放棄された池や水田では生育環境の保全策を実行する。

【文献】118.

(南 正祝・宮島美栄)

(写真：松阪市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

コケシノブ

シダ植物 コケシノブ科

Hymenophyllum wrightii Bosch

【選定理由】既知の生育地点数は10ヶ所程である。減少傾向にある。

【種概要】湿り気が多い山地林下の岩上やときに樹幹にも着生する。細い針金状の根茎を引き、葉長2～5cmで2～3回羽状に分裂する。葉質は暗緑色で薄く透けるような感がある。小羽片が葉軸に着く角度はホソバコケシノブに比べて狭く、30～45°である。

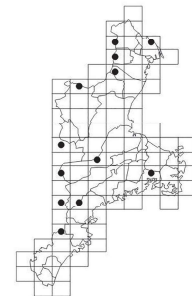
【分布】北海道から九州。県内では、桑名市、いなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、大台町、南伊勢町、大紀町、熊野市。国外では南千島、朝鮮。

【現況・減少要因】記録は多いが、現存が確認できる生育地は少ない。山林伐採・地形改変などの環境悪化（乾燥化）で絶滅した所もある。

【保護対策】生育地、および周辺地域の乾燥化の防止を中心とした環境保全が必要である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，1953年，砂子剛採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオアカウキクサ

シダ植物 サンショウモ科

Azolla japonica (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地である湿田や浅い溜池が減少している。2015レッドでは外来種も含めて評価した可能生があることから、再評価した結果、VUに変更となった。精査すればさらにカテゴリーは上がるものと推測される。

【種概要】水田や池沼の水面に広がって群生する。葉は赤色（時に緑色）で下側に根を何本か伸ばしている。根の根毛は早期に脱落するので古い根には残っていない。

【分布】日本固有種。本州、四国、九州。県内では伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市、鳥羽市に記録がある。

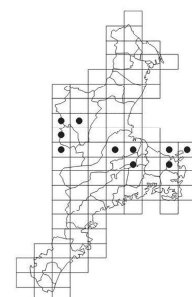
【現況・減少要因】昔ながらの湿田や溜池に生育しているが、農薬の使用や乾田化だけでなく、耕作放棄による環境悪化によって大きく減少している。

【保護対策】生育地である湿田や溜池を大切に、地域住民を中心に人が関わっていくことが大切である。

【特記事項】近縁種で外来種のアゾラ・クリスタータは外来生物法で栽培や移植、移動、譲渡などが禁止されている特定外来生物であるが、本種との判別は困難。

(山路武夫・半田俊彦)

(写真：鳥羽市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サンショウモ

Salvinia natans (L.) All.

シダ植物 サンショウモ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強い。

【種概要】一年生の浮遊植物。茎は長さ3~10 cm。葉は3輪生で、そのうち2枚は対生して浮葉となり、他の1枚は細裂して根のように水中に垂れる。浮葉は長楕円形で、長さは8~15 mm。

【分布】アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ。国内では北海道を除く全国各地に分布。県内では津市、多気町、伊勢市、志摩市、紀北町、伊賀市、名張市で記録がある。池沼、水田、水路などに生育。

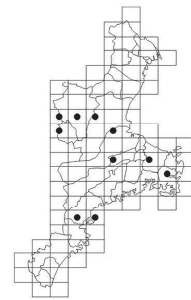
【現況・減少要因】津市、伊勢市、伊賀市の各1か所は2013年の記録である。繁殖力は強いが除草剤には弱い。過去には大きく減少したようである。

【保護対策】大きな環境変化がなかった生育地では生育は継続していることから、現在の生育環境の保全に努めていく必要がある。また生育地で改修工事等を行う場合には生活史を考慮した対策を検討する必要がある。

【文献】1, 73, 106.

(中 優・福田知子)

(写真：紀北町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ハマホラシノブ

Odontosoria biflora (Kaulf.)C.Chr.

シダ植物 ホングウシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、採取圧がある。

【種概要】常緑性シダ。海岸の向陽の岩礁や急崖地の地際に生育する。葉身は長さ10~30 cm、巾7~20 cmで基部が最も広く、裂片は広くさび形。ホラシノブに似るが、葉身、胞子嚢ともに厚い。

【分布】本州（伊豆以西の太平洋側）、四国、九州。県内では紀州（尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布する。

【現況・減少要因】根茎は深く岩の割れ目や赤土の中に入り込んでいるため、自然落下による減少は少ない。極度の乾燥や急崖地の崩落、乱獲が減少要因になる。

【保護対策】乱獲を防止するため、生育地の公表を避けることが重要である。
(花尻 薫)

(写真：尾鷲市，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ホングウシダ

Osmolindsaea odorata (Roxb.) Lehtonen et Christenh.

シダ植物 ホングウシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、限られた溪流沿いでしか見出されていないことから、評価の結果2015年版RDBのNTからVUに変更となった。

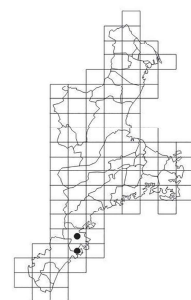
【種概要】山地林下の溪流沿いの岩に着生する小形のシダ。根茎はやや長く這い、葉の長さ10~25 cm、葉身は単羽状。上部の羽片は次第に小さくなり葉の先端は尖る。

【分布】台湾、中国南部からアジアの熱帯。国内では伊豆諸島、紀伊半島南部、長崎県の一部、鹿児島県南部、沖縄。県内では紀北町、尾鷲市に限られている。全国的にも生育地が限定されている。

【現況・減少要因】尾鷲市の生育地では開発による環境の悪化が著しく、減少の一途をたどっている。また、水系周辺部の林道、レクリエーション施設の造成や水系での工事もあることながら、マニアによる採集圧も著しい。

【保護対策】市町当局はもとより工事業者への事前の届出・調査の周知・徹底もさることながら、マニアの採集をいかに防ぐかも課題の一つである。
(加田勝敏・山本和彦)

(写真：尾鷲市，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

アイコハチジョウシダ
Pteris laurisilvicola Sa.Kurata

シダ植物 イノモトソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、いずれの生育地でも個体数は少ない。環境の変化や森林伐採で減少している。

【種概要】ハチジョウシダ群のもの。羽片の基部は切形で無柄。羽片は軸に対して広い角度の斜めに着く。最下羽片の下向き小羽片は通常1対。植林地下に生育する。

【分布】本州（静岡県、紀伊半島、山口県）、四国、九州に分布。県内では伊勢市、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

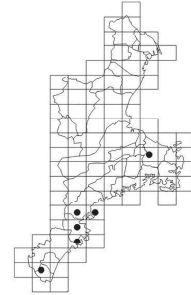
【現況・減少要因】森林伐採による減少がみられるが、県南端部の紀宝町では若干個体数は増えている。ニホンジカの被害から免れているためだろう。他の生育地は現状不明である。

【保護対策】主にスギ植林下に生育するため、伐採時には事前の届出や調査が必要とされる。

【文献】80, 115.

(大洞浩一)

(写真：紀宝町，1984年，大洞浩一採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヤワラハチジョウシダ
Pteris natiensis Tagawa

シダ植物 イノモトソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、森林伐採や土地開発等の事業により、生育環境が激変して、生育適地が減少するおそれがある。

【種概要】山地の林内に生育する。葉柄は細く、葉は柔らかく羽片の基部は狭まり、中央部が最も幅が広い。羽片の数は2～5対。最下羽片は通常1個の羽片を分岐する。

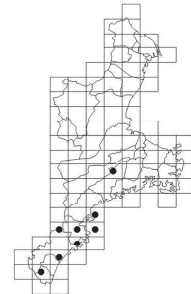
【分布】日本固有種。紀伊半島東南部、四国、九州。県内では、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町、御浜町から記録されている。

【現況・減少要因】尾鷲市、紀北町では、山そのものがなくなるような事業が行われて、シダ植物の生育適地は著しく減少している。紀北町が本種の分布北限地と認識されていたが、近年、北上し大紀町内の山地林内でも確認されている。

【保護対策】森林伐採、林道開設等大規模な環境改変の際には、本種の保全に特別な配慮が必要である。

(加田勝敏・山本和彦)

(写真：大紀町，2024年，宮島美栄撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	EN

維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメイトラノオ
Asplenium capillipes Makino

シダ植物 チャセンシダ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数は少ない。山地の石灰岩上に生育するが、絶滅が危ぶまれる。

【種概要】イトラノオに近似するが、上部に無性芽を生じる。葉柄は通常葉身より長い。

【分布】ヒマラヤ、朝鮮、台湾。国内では北海道、本州（新潟県以南）、四国、九州に分布。県内では松阪市、大台町、尾鷲市に記録がある。

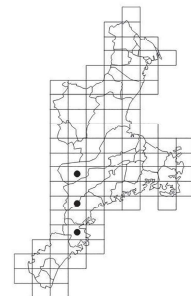
【現況・減少要因】もともと生育地や個体数も少ないが森林伐採や土砂崩壊等により減少しているものと思われる。

【保護対策】生育地周辺の森林伐採、道路建設等は避けるべきである。自生地周辺の調査も必要。

【文献】80.

(大洞浩一)

(写真：尾鷲市，1965年，田中年秋採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナンゴクホウビシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Hymenasplenium murakami-hatanakae Nakaike

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、限られた環境に生育する。
【種概要】ホウビシダに似るが、羽片の先端部は鎌状に細くなり、ソーラスがほぼ辺縁近くまで達するので区別できる。山林中の溪流沿いの水が滴るような斜面に生育する。

【分布】中国、台湾。国内では本県南部、四国、九州、伊豆諸島、小笠原、沖縄。県内では尾鷲市、熊野市に産する。

【現況・減少要因】森林伐採や道路建設、洪水等による土砂崩壊で減少している。

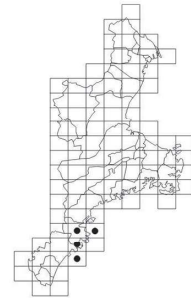
【保護対策】生育地周辺の森林伐採、林道より谷間への土砂崩壊、流出等を防止する対策が急務。

【特記事項】和歌山県側には今のところ未確認である。

【文献】80。

(大洞浩一)

(写真：熊野市，2008年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤクシマホウビシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Hymenasplenium obliquissimum (Hayata) Sugim.

【選定理由】既知の生育地点数は10前後であるが、各地点の個体数は少なく、砂防堰堤建設や道路工事等により消滅したところも散見される。

【種概要】溪流沿いの常に水の滴る陰湿な岩壁に生育。根茎は長く横走りし、薄い葉をまばらにつける。葉は長さ20 cmほど、羽片は少し斜上してつき緑色。葉面の組織は2層か3層の細胞よりなり、透けて見える。

【分布】伊豆半島（ごく稀）、紀伊半島、大隅半島から屋久島、奄美大島。国外ではヒマラヤから東南アジアにかけて分布している。県内では紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町から記録されている。

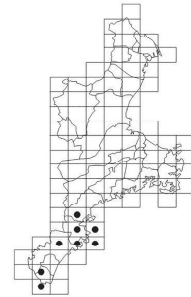
【現況・減少要因】生育環境が限定されており、各生育地の群落面積も小さいため、自生地周辺の環境改変により消滅する危険性がある。

【保護対策】森林伐採、道路開設等大規模な環境改変の際には、保存に配慮が必要である。

【文献】105。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2006年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イワヤシダ

シダ植物 イワヤシダ科

Diplaziopsis cavaleriana (H.Christ) C.Chr.

【選定理由】既知の生育地点数は10数か所であり、いずれの産地でも個体数は少ない。マニア等による採取圧が強く、環境の変化や開発がおきやすい場所に生育している。

【種概要】夏緑性、根茎はほぼ直立。葉は淡緑色。葉身は単羽状複生。はっきりした頂羽片がある。羽片は無柄に近い。葉脈は網状脈で葉質は柔らかい。ソーラスは羽軸に接してつき、ソーセージ状のやや弯曲し、膨らんだ包膜をもつ。

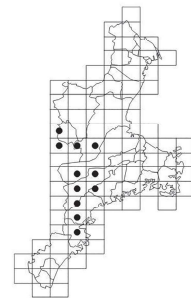
【分布】中国。国内では本州、四国、九州に分布。県内では伊賀市、名張市、松阪市、大台町、尾鷲市、熊野市で記録がある。山地の陰湿な樹林下に生育する。

【現況・減少要因】過去には各地で記録があるが、現状は不明な所が多い。名張市、松阪市、大台町で現認されている。マニア等の採取、森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。

【保護対策】マニア等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。

(南 正祝)

(写真：名張市，1947年，百永章採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヒメハシゴシダ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris cystopteroides (D.C.Eaton) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、各地点の個体数は少ない。

【種概要】常緑性。根茎は長く横走り群落をつくる。葉身は長さ6cm、幅1.5cm前後。葉質は革質からやわらかい紙質、葉脈上有毛、裏面に腺がある。

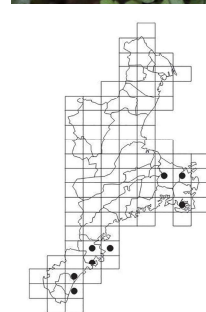
【分布】伊豆半島、紀伊半島南部、広島県宮島、四国南部、九州西南部、沖縄。県内では伊勢市、志摩市、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布。

【現況・減少要因】志摩市の生育地では開発により一部が消滅した。他の生育地の現況はあまり変化がない。

【保護対策】開発にあたっては、事前の調査と保全対策が必要である。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：尾鷲市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ミゾシダモドキ

シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris omeiensis (Baker) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各自生地の個体数は多くなく、森林の伐採などにより激減した生育地もある。

【種概要】山地の溪流沿いの陰湿な林下にややまれに生じる。常緑性。根茎は横走る。葉柄は基部がわずかに太く、長さ20~40cm。葉身は長楕円状披針形で、長さ30~60cm。葉脈はすべて遊離。包膜はない。葉身の上部を除いて、中軸に翼がない。羽片基部に通気孔がある。

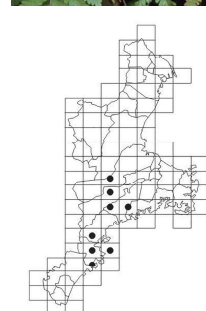
【分布】千葉県以西の本州南部、四国、九州の山地。県内では、中勢、南勢、紀州に分布する。

【現況・減少要因】松阪市飯高町、大紀町大宮、大台町宮川、紀北町、尾鷲市などからの標本記録がある。森林伐採による乾燥化で激減したり、消滅の危機にさらされているところもある。

【保護対策】森林の伐採などを避け、生育地の保護が必要である。

(山脇和也)

(写真：尾鷲市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ムクゲシケシダ

シダ植物 メシダ科

Deparia kiusiana (Koidz.) M.Kato

【選定理由】既知の生育地点数は10以下である。個体数は少ない。

【種概要】夏緑性のシダで山地の湿った林床に生える。セイタカシケシダに似るが葉柄や中軸に白色鱗片が密生し、羽片の切れ込みは浅い。胞子葉は栄養葉に比べて葉身、葉柄ともに長い。胞膜縁は裂ける。固有種。

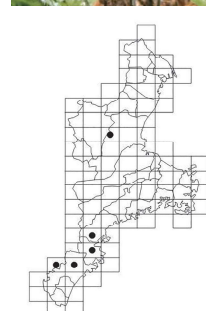
【分布】本州（山形県および関東以西）、四国、九州の林床。県内では伊賀市、津市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市に記録がある。

【現況・減少要因】少なくとも熊野市山間部一帯で散発的に確認されている。他地域でも環境さえ満たせば生育が期待される。減少要因として森林伐採があげられる。

【保護対策】群生するシダではないが、環境の維持により持続すると思われる。

(市川正人)

(写真：大阪府，2002年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミドリワラビ

シダ植物 メシダ科

Deparia viridifrons (Makino) M.Kato

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、ニホンジカの食害等により個体数が減少しているため、NTからVUに変更となった。

【種概要】山地や低地の斜面などに生じる夏緑生のシダ。根茎は太く、短く這う。葉は三角形から三角状卵形、3回中裂から深裂する。小羽片の裂片は鋸歯が目立つ。小脈は2岐のものもまじえる。羽軸の翼は狭い。オオヒメワラビに似る。

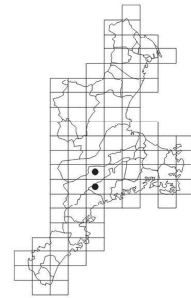
【分布】本州（日本海側にはない）、四国、九州。国外では朝鮮半島南部、中国中部にも記録。県内では、大台町に生育する。

【現況・減少要因】大台町総門山と島谷に生育するが、森林の伐採や林道整備や食害が進みかなり減少した。

【保護対策】総門山一帯は、他にも貴重な植物が生育しているので、森林の伐採や林道整備などの禁止や、ニホンジカの防護柵などを設置するなどの適切な保護がなされるべきである。

(山脇和也)

(写真：大台町，2002年，市川正人撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

イヨクジャク

シダ植物 メシダ科

Diplazium okudairae Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各自生地の個体数は250未満である。

【種概要】山地林下の溪流沿いなどのやや陰湿な地上に生じる夏緑生のシダ。ノコギリシダによく似ているが、根茎はやや短く、葉はやや混み合っている。葉は単羽状複生で頂羽片がない。羽片基部には著しい耳垂れがある。葉質は薄く、紙質。上部の羽片の基部は中軸に流れ、翼をつくる。

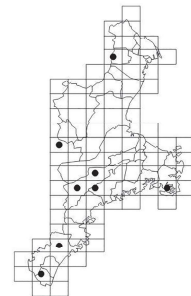
【分布】本州（静岡県以西の太平洋側）、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内のおもな生育地は、菰野町、松阪市、大台町、名張市、熊野市などで、全域に点々と記録されている。

【現況・減少要因】森林伐採による生育環境の乾燥化や、氾濫による生育環境の崩壊により減少する可能性がある。

【保護対策】森林伐採や道路整備の時、注意が必要である。また、この種のシダが生育するところでは、他の貴重な植物も多くみられるため、この地域全体を保護することが望まれる。

(山脇和也)

(写真：大台町，2001年，市川正人撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
EN

オトコシダ

シダ植物 オンダ科

Arachniodes yoshinagae (Makino) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、未知の生育地も既知のそれを上回ることではない。

【種概要】山地の林下に生育する中形の常緑性シダ。根茎は這い、鱗片をつける。葉はかたい革状草質、濃緑色でやや光沢がある。ほとんど無毛。

【分布】本州（伊豆半島、紀伊半島、山口県）、四国、九州。国外ではヒマラヤから中国、ミャンマー、タイ、インドシナに分布。県内では大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】これまでに確認されている自生地は、各分布地域で1〜3ヶ所程度で、個体数は少なく稀である。マニアによる採取や林道工事により消失した生育地もみられる。

【保護対策】生育地の公表は避ける、自生地周辺の森林を保全する等の手だてが必要である。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2006年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

非公表

シラネワラビ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris expansa (C.Presl) Fraser-Jenk. et Jermy

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

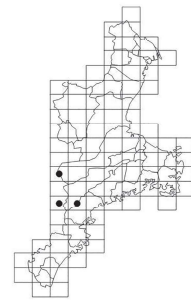
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】既知の生育地点数は5以下である。
 【種概要】羽軸や小羽軸に袋状鱗片はなく、葉身は五角形状で3回羽状深裂する。葉柄の鱗片には中央が黒褐色のものが混ざる。温帯林の林床に生育する。
 【分布】北半球温帯地域。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、西南地域では冷涼な高地に限られる。県内では、松阪市、大台町、紀北町で記録がある。
 【現況・減少要因】森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。
 【保護対策】生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。

(加田勝敏・山本和彦)

(写真：松阪市，2013年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

キヨズミオオクジャク

シダ植物 オシダ科

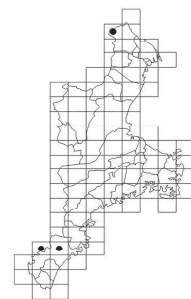
Dryopteris namegatae (Sa.Kurata) Sa.Kurata

【選定理由】既知の生育地点数が10以下である。
 【種概要】常緑性のシダでイワヘゴやオオクジャクシダに似る。イワヘゴに比べて中軸の鱗片は少なく短くなること、羽片は上面葉脈部分が著しく凹むこと、下部羽片は多少短くなり漸尖することである。オオクジャクシダとは孢子嚢群が羽軸寄りになっている点が相違点である。
 【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。イワヘゴやオオクジャクシダと同じような陰湿な環境に生育する。県内ではいなべ市、大台町、熊野市に記録されている。国外では中国。

【現況・減少要因】熊野市生育の個体数が多い。土地造成や森林伐採が減少要因となる。
 【保護対策】森林伐採による乾燥化に注意を要する。

(市川正人)

(写真：いなべ市，1982年，山内繁太郎採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

イワイタチシダ

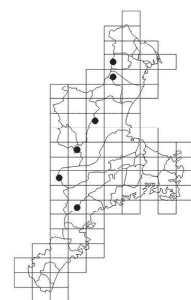
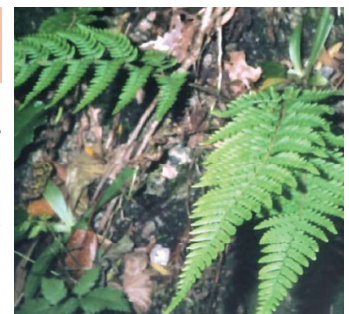
シダ植物 オシダ科

Dryopteris saxifraga H.Itô

【選定理由】既知の生育地点数が10以下であり、各地点の個体数は少ない。
 【種概要】ヤマイタチシダに似た常緑性のシダであるが、全体小さく、葉柄や中軸の鱗片は密につき広披針形で尾状にのび、開出、またはやや下向きにつき、弓なりに曲がって、先は上を向く特徴がある。黒褐色から黒色を呈する。
 【分布】北海道から九州。一般的には寒冷で陰湿な林下の岸壁に生える。県内ではいなべ市、四日市市、伊賀市、津市、松阪市、大台町に記録がある。国外では朝鮮から中国東北部。
 【現況・減少要因】生育場所から直ちに絶滅する心配はないが、森林伐採時には注意が必要である。
 【保護対策】生育場所は人為的圧力の及ぶようなところではなく、自生環境を現状のまま維持することである。
 【特記事項】同定には類似のイヌイワイタチシダ（ヤマイタチシダ×イワイタチシダ）に注意したい。

(市川正人)

(写真：四日市市，2006年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ホオノカワシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris shikokiana (Makino) C.Chr.

【選定理由】既知の生育地点数は10数か所であるが、近年洪水等で個体数が激減している。

【種概要】一見キョスミヒメワラビに似るが、最下の下向第一小羽片は最も大きい。葉柄の鱗片は黒褐色で光沢がある。

【分布】中国。国内では本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布。県内では大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

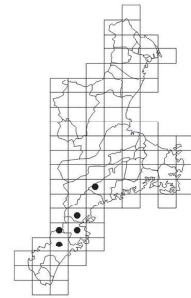
【現況・減少要因】2011年の紀伊半島大水害による洪水や、渓谷崩壊等により個体数が激減している。

【保護対策】生育地周辺の森林伐採等は避け、林道等の土砂崩壊につながらないように適切な森林管理が必要である。

【文献】80, 115.

(大洞浩一)

(写真：尾鷲市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

タニヘゴ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris tokyoensis (Makino) C.Chr.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】山地～丘陵地の明るい湿地に生育するシダで、冬は地上部が枯れる。葉の長さは1m以上に達し、羽片は下部ほど小さく三角状になり、各羽片の基部は耳状に突出する。

【分布】北海道から九州。県内では亀山市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、明和町、大台町に記録がある。国外では朝鮮。

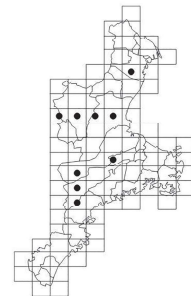
【現況・減少要因】土地の乾燥化、丘陵地や山地谷部の埋立・改変等による湿地の消滅が最大の要因。伊賀市の生育地は多いが土地改変で減少している。

【保護対策】生育地の個体保護、および周辺部の環境保全が必要である。特に水脈の維持に注意を要する。

【特記事項】伊賀市柘川二つ池上流の群落は、市の天然記念物に指定されている。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊賀市，2018年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヒロハアツイタ

シダ植物 オシダ科

Elaphoglossum tosaense (Yatabe) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、個体数は少ない。マニアや園芸業者等による採取圧が強い。

【種概要】アツイタによく似ているが、葉柄がはっきりしていること、葉縁に白い薄膜があり葉面は波を打っていることで区別できる。

【分布】本州（静岡県、紀伊半島）、四国、九州に分布。県内では大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市で記録がある。

【現況・減少要因】大台町および紀北町の他は現状不明である。マニアや園芸業者等の採取、森林伐採による環境変化によるものと思われる。

【保護対策】繁殖力の弱い種であるから、プロ・アマ問わず採取には充分注意を払わなければならない

【文献】80, 115.

(大洞浩一)

(写真：大台町，2022年，宮島美栄撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

非公表

アツイタ

シダ植物 オシダ科

Elaphoglossum yoshinagae (Yatabe) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、採取圧、開発圧などによりここ10年間の減少傾向が著しく、将来も同様な減少が継続すると推測されることからNTからVUへ変更となった。

【種概要】山林中のやや陰湿な岩上か樹幹に着く常緑性シダ。根茎は横走り、栄養葉の長さは5~10 cm。葉身は長楕円状披針形、長さ10~30 cm。

【分布】本州（関東以南）、四国、九州。県内では度会町、南伊勢町、大紀町、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布する。

【現況・減少要因】園芸用採取と森林伐採による環境の悪化により減少した。

【保護対策】生育地の公表には位置の明示を避けることが必要である。
(花尻 薫・土永知子)

(写真：南伊勢町，2016年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

オニイノデ

シダ植物 オシダ科

Polystichum rigens Tagawa

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。

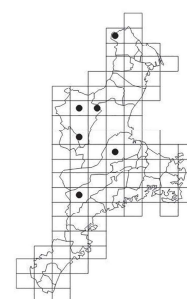
【種概要】葉は革質で光沢が強く、長さは40~70 cm、葉身と葉柄はほぼ等長、小羽片は中軸に流れて着き、裂片の先は棘状になる。葉柄や中軸には褐色の鱗片が密に着く。

【分布】国外では中国。本州（関東以西）。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市、大台町に記録されている。国外では中国。

【現況・減少要因】伊賀市の生育地は比較的安定している。林道の拡幅工事や森林伐採による生育環境悪化が減少要因である。

【保護対策】個体の保護、および生育地の保全を図る。
(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊賀市，2014年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キクシノブ

シダ植物 シノブ科

Davallia repens (L.f.) Kuhn

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。採取圧により減少傾向にある。

【種概要】高湿度地の樹幹や岩上に着生する常緑シダで、根茎は長く匍匐する。葉身は三角形から五角形の菊の葉状で、長さ10~25 cm、幅2~7 cmで革質である。

【分布】紀伊半島、四国南東部、九州南部、沖縄。国外では旧世界の熱帯に広く分布する。県内では伊勢市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、紀宝町に記録がある。

【現況・減少要因】生育場所から直ちに絶滅する心配はないが、森林伐採時には注意が必要である。

【保護対策】南伊勢町の生育地では乱獲により個体数が減少している。紀北町では乱獲により絶滅した生育地もある。

【特記事項】採取防止のため、生育地の公表を避けること、保護啓発に常に力を入れていくことが必要である。
(岡 与一・半田俊彦)

(写真：紀北町，2004年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヌカボシクリハラシ

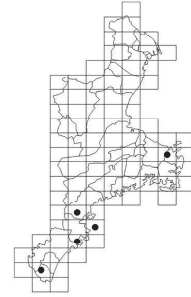
シダ植物 ウラボシ科

Lepisorus superficialis (Blume) C.F.Zhao, R.Wei et X.C.Zhang

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。採取圧により減少している。
 【種概要】常緑性。根茎は長く横走り、径3～5mmの鱗片をつける。葉身は単葉広披針形、長さ20～40cm、幅1.5～2.5cm、全縁革質、両面に鱗片がつく。
 【分布】関東地方以西から九州にいたる各地と沖縄本島。国外では済州島、台湾（高山）、中国からインドシナに分布。県内では鳥羽市、尾鷲市、紀宝町に記録がある。
 【現況・減少要因】南勢地域の生育地では比較的多くの個体数が残されているが、紀州では、乱獲され皆無状態となった生育地も多い。
 【保護対策】生育地の情報は慎重に取り扱う必要がある。

(大洞浩一)

(写真：鳥羽市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

タカノハウラボシ

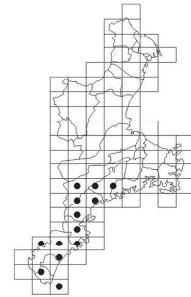
シダ植物 ウラボシ科

Selliguea engleri (Luerss.) Fraser-Jenk.

【選定理由】既知の生育地点数は比較的多いが、各地点の個体数は少なく、採取圧が強い。
 【種概要】常緑性シダ。山林下の湿った岩上や樹幹に着生。葉は長さ30～50cmほどに達し、根茎は長く這う。葉柄基部および根茎上には茶褐色の鱗片を密につける。葉身は単葉で巾は平行的に細長い。
 【分布】本州（伊豆諸島、静岡県から近畿地方、山口県）、四国、九州。県内では南勢（大台町、南伊勢町、大紀町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）で記録がある。
 【現況・減少要因】乱獲による減少、森林伐採による生育環境の悪化が主な減少要因である。
 【保護対策】人の近寄れない岩上の生育地などは安全であるが、容易に手の届く場所については採取対策に留意する必要がある。

(花尻 薫)

(写真：熊野市，2008年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

マツバラシ

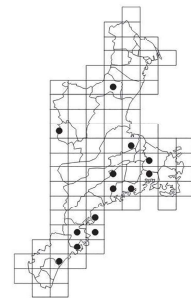
シダ植物 マツバラシ科

Psilotum nudum (L.) P.Beauv.

【選定理由】本来の自生のものは少ないが、近年、市街地では栽培起源ものと思われるものが増えている。個体数は増加傾向にあるが、自生か逸出かの区別は難しいところがあることから評価の結果、前回のVUからNTに変更となった。
 【種概要】山地に生育し、暖地では樹幹に着生するが、ときには岩やコンクリートの隙間にも生えるシダ植物。根茎は密に叉状に分枝する。地上の茎は高さ10～40cm、緑色で無毛。
 【分布】本州（宮城県以南）、四国、九州、沖縄。県内全域に点々と記録がある。
 【現況・減少要因】園芸用の採集が主たる圧力。森林伐採や環境の変異による減少もある。石垣や社寺林で住宅街の植木鉢などからの逸脱が見られることもある。
 【保護対策】自生と考えられるものについては十分な保全策が必要。また着生する樹幹の保護、神社の森や巨木の保護も重要な要素である。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	VU
環境省 2020	NT

リュウビнтаイ

シダ植物 リュウビнтаイ科

Angiopteris lygodiifolia Rosenst.

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、採取圧やニホンジカの食圧による減少が著しい。

【種概要】葉の高さ2mにもなる大型の常緑性シダ。根茎は太い塊状、托葉とともに直径30cmに達する。葉は2回羽状複葉で小羽片は15~25対ある。

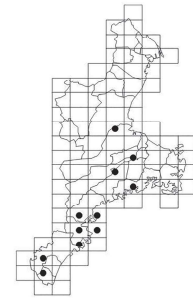
【分布】本州（伊豆以西）、四国南部、九州南部、沖縄。県内ではこれまで南勢（南伊勢町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布が限られていたが、近年、津市や多気町、大紀町からも生育が確認されている。

【現況・減少要因】園芸用の採集が主たる減少要因。森林伐採による生育環境の悪化もみられる。近年ではニホンジカの被害も顕著となっている。

【保護対策】大型種でよく目立つので、誰にでも簡単に採取できる。地域で保護対策を講じないと絶滅のおそれがある。

（花尻 薫・土永知子）

（写真：大紀町，2017年，山本和彦撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

スジヒトツバ

シダ植物 ヤブレガサウラボシ科

Cheiropleuria integrifolia (D.C.Eaton ex Hook.) M.Kato, Y.Yatabe, Sahashi et N. Murak.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20。生育環境の悪化により一部生育地では減少している。

【種概要】常緑性。根茎は短く横走り径1cm以上。根につく毛はやわらかく、淡褐色から白色。葉は葉柄基部をのぞいて無毛、表面は平滑である。比較的うっ閉した林内に生育する。

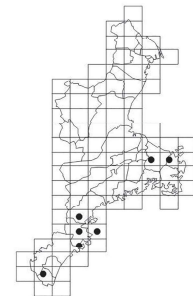
【分布】伊豆諸島、静岡県、紀伊半島、四国南部、九州（西南部）、沖縄、国外では中国南部、インドシナからマレーシア、ニューギニアに分布。県内では伊勢市、紀北町、尾鷲市、紀宝町に分布。

【現況・減少要因】一部の生育地では開発、森林伐採により減少している。マニアによる乱獲も減少要因のひとつである。

【保護対策】常に生育状況を把握していく必要がある。

（岡 与一）

（写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヒノキシダ

シダ植物 チャセンシダ科

Asplenium prolongatum Hook.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ15、各生育地の個体数は少ない。

【種概要】常緑性。根茎は短く斜上から直立。鱗片をつけ、葉は叢生する。葉柄は緑色、長さ5~10cm。葉身は狭長楕円形から披針形で10~20cm。

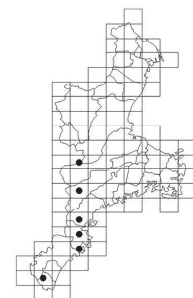
【分布】本州（伊豆半島、静岡県天竜市、紀伊半島）、四国南部、九州。国外では朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム、インド、スリランカに分布。県内では松阪市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

【現況・減少要因】愛好家による採取や林道の開設、林地開発により減少傾向にある。

【保護対策】継続的に生育状況を調査する必要がある。

（岡 与一）

（写真：尾鷲市，2020年，池田博撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アミシダ

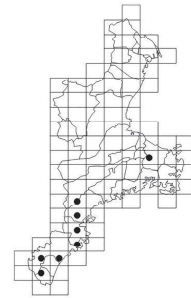
シダ植物 ヒメシダ科

Thelypteris griffithii (Hook.f. et Thomson) C.F.Reed var. *wilfordii* (Hook.) C.M.Kuo

【選定理由】 既知の生育地点数はおよそ20. 採取圧がある。
 【種概要】 山常緑性. 根茎は短く, 斜上から横走り相接して葉をつける. 全体に密毛がある. 葉脈が不規則に結合して網目をつくる. 普通は樹陰に生育している。
 【分布】 紀伊半島南部, 四国南部, 九州, 沖縄. 国外では台湾, 中国南部に分布. 県内では伊勢市, 紀北町, 尾鷲市, 熊野市, 紀宝町に分布。
 【現況・減少要因】 愛好家による採取圧や開発圧により, 今のところ激減はしていないが, 減少傾向にある。
 【保護対策】 生育状況調査が必要である。

(岡 与一)

(写真: 尾鷲市, 2015年, 山本和彦撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

ミヤコイヌワラビ

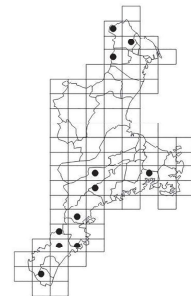
シダ植物 メシダ科

Athyrium imbricatum H.Christ

【選定理由】 既知の生育地点数が10以下である. 各生育地の個体数は250未満である。
 【種概要】 夏緑性でホソバイヌワラビよりさらに湿った所に生育するシダであるが, 比較的光を好むようである. 形態はホソバイヌワラビに似るが, 葉柄や中軸は紅紫色を帯び, 小羽片はほぼ左右同形である。
 【分布】 本州 (関東地方以西), 四国, 九州の多湿の林下・林縁に生育. 県内ではいなべ市, 桑名市, 菰野町, 四日市市, 大台町, 南伊勢町, 紀北町, 尾鷲市, 熊野市, 紀宝町に記録がある. 国外では中国。
 【現況・減少要因】 環境に変化がない生育地の個体数増減は認められない. 土地造成, 森林伐採による乾燥化が減少要因となる。
 【保護対策】 生息地の環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)

(写真: 南伊勢町, 1979年, 山内繁太郎採集, 三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

サキモリイヌワラビ

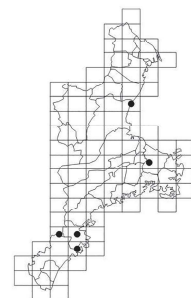
シダ植物 メシダ科

Athyrium oblitescens Sa.Kurata

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下. 各生育地の個体数は50未満である. 今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。
 【種概要】 山地の林下に生じる常緑性のシダ. タニイヌワラビに似るが, 葉身はやや草質でやわらかく, やや厚みがあり, 羽片には長さ2~3mmの柄がある。
 【分布】 日本固有種. 本州 (新潟県以西の日本海側および東海. 近畿地方), 四国 (愛媛県), 九州北部. 県内では中南勢, 紀州地域に記録がある。
 【現況・減少要因】 津市河芸町, 伊勢市, 尾鷲市に標本記録があるが, 現状不明である. 森林の伐採などで減少する可能性はある. 現状不明であるが, 県内の個体数はそれほど多くないようである。
 【保護対策】 森林伐採時には注意が必要である。

(山脇和也)

(写真: 津市, 1984年, 山内繁太郎採集, 三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

フモトシケシダ

シダ植物 メシダ科

Deparia pseudoconilii (Seriz.) Seriz. var. *pseudoconilii*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地における個体数も多くはない。

【種概要】 葉はホソバシケシダに似ているが、根茎は長く這い、葉柄は紫褐色を帯び、葉身はやや三角状で最下羽片が最も長く、表裏両面に多細胞毛が多い。包膜は幅が狭く、有毛である。

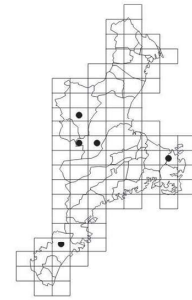
【分布】 本州（宮城県以南）、四国、九州。県内では津市、伊賀市、名張市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】 人里近くに生育していることが多い植物なので、開発により減少している可能性があり、生育地の現況は不明である。

【保護対策】 正確な現況を把握すると共に、生育地である里山を保全する必要がある。

(芹沢俊介)

(写真：津市，2007年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

シマシロヤマシダ

シダ植物 メシダ科

Diplazium doederleinii (Luerss.) Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は10数か所であるが、近年洪水等で個体数が激減している。

【種概要】 シロヤマシダに似ているが葉面は黒緑色。裂片の先は平円形で僅かに鋸歯がある。胞子嚢群ソーラスは中肋近くにつく。スギ林、ヒノキ林下に群生する。

【分布】 フィリピン、インドシナ、中国、台湾。国内では本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市に記録がある。

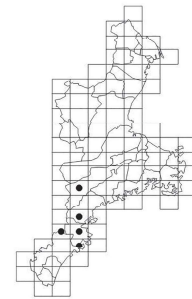
【現況・減少要因】 近年の森林伐採により群落が消滅した生育地がある。森林伐採による環境破壊により減少している。

【保護対策】 生育地周辺の森林伐採等は事前に届出等の義務が必要である。

【文献】 80, 115.

(大洞浩一)

(写真：岐阜県，2024年，宮島美栄撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris crassirhizoma Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は30以下であり、ブナ・ミズナラ林が成立する山地では普通に見られるシダ植物であった。しかし近年、ニホンジカの食害により県内の生育地全域において個体数が激減し、なかには消滅した地域も見受けられる等、衰退が著しい。

【種概要】 温帯林の林床に生育し、しばしば群生する夏緑性の植物。根茎は直立して塊状となり葉を束生する。葉柄は短い、葉身は長く、長さ60~120 cm、幅20~30 cm、下部の羽片はしだいに短くなる。

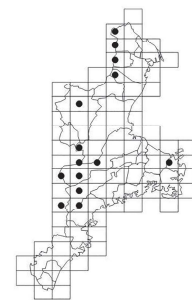
【分布】 北海道、本州、四国。国外では朝鮮、中国東北部、ロシア東部に分布。県内では、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、大台町、伊勢市から記録されている。

【現況・減少要因】 かつての群生地もニホンジカの食害により全滅に近い状況で、崖地や険しい急斜面の上部等、ニホンジカも容易に侵入できない場所にかろうじて生存している現況である。

【保護対策】 ニホンジカの食害を防ぐ手立てが必要。

(山本和彦)

(写真：大台町，2016年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

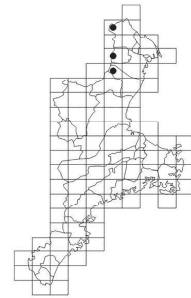
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマベニシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris monticola (Makino) C.Chr.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育個体数は250未満である。
 【種概要】高地・深山の林床・林縁に生育する温帯夏緑性のシダである。葉は長楕円形で下部羽片は縮小せず、2回羽状深裂～全裂、裂片の側脈は2～3に分岐する。孢子嚢群は裂片の中肋寄りに着く。鱗片は大形で濃褐色、密に葉柄に着く。根茎は這う。
 【分布】北海道から九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市に記録がある。国外では朝鮮、中国、ロシア。
 【現況・減少要因】森林伐採による生育環境の悪化やシカの食害などで激減している。
 【保護対策】シカの個体数管理を含め生育環境の保全を要する。
 (加田勝敏・市川正人)
 (写真：いなべ市、1950年、百永章採集、三重県総合博物館所蔵)



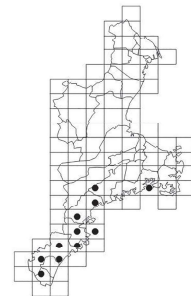
三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

オワセベニシダ

シダ植物 オシダ科

Dryopteris ryo-itoana Sa.Kurata

【選定理由】既知の生育地点数は10ほどであり、存続の基盤が脆弱である。
 【種概要】岩の多い山林下に生える常緑性のシダ。根茎は斜上し、塊状、葉柄にはやや密に鱗片がある。鱗片は茶褐色で近縁には微突起がある。葉身は三角状卵形で2回羽状複生、長さ40 cmをこえる。羽片はほとんど無柄。小羽片は羽軸に傾いてつき、包膜は全縁で中央部が紅色となる。
 【分布】日本固有種。本州（岐阜県、紀伊半島、山口県）、四国に分布。県内では南勢、紀州地域からの記録がある。
 【現況・減少要因】造林地の林床や岩場に点在し、とくに激減している種でもないが、道路の拡幅工事や伐採等で生育環境が改変されている自生地も散見される。
 【保護対策】自生地およびその周辺の森林の保全が必要である。
 (山本和彦)
 (写真：尾鷲市、2014年)



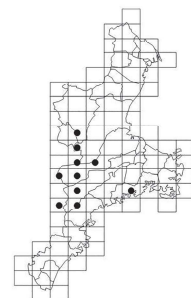
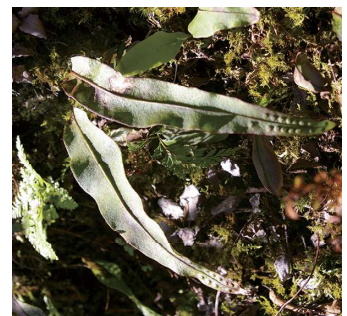
三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

ホテイシダ

シダ植物 ウラボシ科

Lepisorus annuifrons (Makino) Ching

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であるが、現認できた生育地は少ない。
 【種概要】山林下の樹幹や岩上に着生する。冷涼な地を好む。根茎は短く這う。葉は長さ10～25 cm位で中央部の少し下側が一番広い。淡緑色で葉質は薄い。孢子嚢群はやや中肋寄りにつく。
 【分布】北海道、本州、四国、九州と広く分布する。県内では、松阪市、津市、名張市、南伊勢町、大台ヶ原山で確認されている。
 【現況・減少要因】原生林の伐採や大木の枯死で減少が進んでいる。また、付着した岩石の崩落による減少も考えられる。
 【保護対策】原生林の伐採は避ける。また、生育地の状況をよく現地で観察し対策をたてる。
 (南 正祝)
 (写真：津市、2013年、市川正人撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

イシガキウラボシ

Lepisorus yamaokae Seriz.

シダ植物 ウラボシ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上となっているが、採取圧により減少傾向にある。従来コウラボシ *L. uchiyamae* (Makino) H.Ito と混同されていた植物で、従前ではその名で掲載した。

【種概要】夏緑性で根茎は横走し、やや密に鱗片をつける。葉質は薄く、淡緑色～黄緑色。鱗片は三角状卵形～線状披針形。

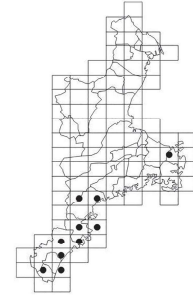
【分布】日本固有種。本州（伊豆半島，東海地方，紀伊半島，中国地方西部），四国，九州（福岡県，大分県）。県内では鳥羽市，紀北町，尾鷲市，熊野市，御浜町，紀宝町に分布。

【現況・減少要因】紀州では点々と生育しているが、多くの生育地では個体数は減少傾向にある。一部のマニアによる採取が原因と思われる。

【保護対策】地域住民への啓発を行い，採取防止をはかる必要がある。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：尾鷲市，2018年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

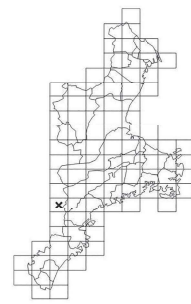
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サルメンエビネ

被子植物 ラン科

Calanthe tricarinata Lindl.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
 【種概要】冷温帯の落葉樹林下に生える多年草。葉は2~4個が根生し、長さ15~40 cm、巾3~11 cmの倒卵状長楕円形。花期は4から5月。花は帯褐緑色で花弁は長楕円状倒卵形、唇弁の舷部は不ぞろいな隆起した皺があつて紫褐色、先は深く凹入する。花茎は高さ30~50 cm。
 【分布】北海道から九州、国外では朝鮮半島、台湾、中国、インド、ヒマラヤの冷温帯。県内では松阪市からの標本記録(1972)がある。
 【現況・減少要因】絶滅したと思われるが原因は不明である。
 【保護対策】再発見の際には生育域の保護に努め園芸採取を禁止する必要がある。また、遺伝子の攪乱を防ぐために県内外で採取された栽培株の植え戻しは禁止すべきである。
 【特記事項】標本は紀北町立紀伊長島郷土資料館に収蔵されている。
 (葛山博次)



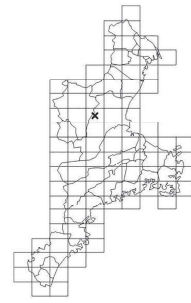
三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	VU

ムカゴソウ

被子植物 ラン科

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) Vuijk

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。
 【種概要】やや湿った草地に生える。根は楕円形の球状。茎はやや細く、高さ20~45 cm、中部に3~5葉を互生する。葉は線形または広線形で鋭先端、基部は茎を抱く。花は6~8月、淡緑色の小花を多数穂状につける。
 【分布】国内では、北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。県内では、津市(1904)および伊賀市(1960)に生育していた記録がある。
 【現況・減少要因】三重県レッドデータブック2005では情報不足(DD)として扱われた。その後調査が進められたが確認できず、絶滅したものと考えられる。その要因は不明である。
 【特記事項】「伊賀地方産植物目録」(1960)の補遺にムカゴソウが記載され、標本は三重県立上野高校に収蔵されている。また津市布引山にも生育記録があり、標本は四日市市楠交流会館に収蔵されている。
 【文献】69, 163。
 (葛山博次)



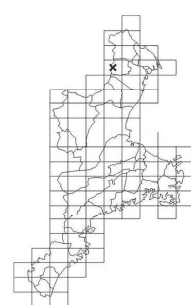
三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	EN

セイタカスズムシソウ

被子植物 ラン科

Liparis japonica (Miq.) Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は1であるが、標本が得られてから50年以上の間、新たな確認記録がないため絶滅と判断した。
 【種概要】深山の林内に生える。葉は2枚、広楕円形、鈍頭、長さ6~12 cm、幅3~5 cm。花茎は直立し、高さ20~40 cm。6~8月に淡緑色または帯紫色の花をつける。
 【分布】北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮、中国東北部、アムールに分布。県内では菰野町から記録されている。
 【現況・減少要因】絶滅の原因は不明。
 【保護対策】自生地周辺は国定公園として保護されており、今後再確認の可能性も失われていないと思われる。その際には生育地の保全が必要である。
 【特記事項】標本は三重県総合博物館に所蔵されている。
 (山本和彦)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

ムカゴトンボ

被子植物 ラン科

Peristylus densus (Lindl.) Santapau et Kapadia

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。
 【種概要】多年草で茎は直立し、高さ20~50 cmになる。葉は茎の下部に3~5個つける。葉身は卵状楕円形、長さ4~10 cm、巾1~2.5 cm。花期は9~10月。花は茎の上部にやや多数つき、長さ10~25 cmの穂状花序となり、直径5~6 mmで淡緑色。唇弁は基部近くまで深く3裂し、中裂片は舌状、側裂片は糸状で6~7 mm、距は棍棒状で3~4 mm。

【分布】本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄の暖温帯、国外では済州島に分布。県内では布引山地（1902年）および亀山市阿野田町（1935年）での標本記録がある。

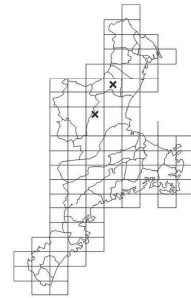
【現況・減少要因】日当たりの良い湿地に生育するが、湿地の開発や管理放棄による生育環境の変化、植生の遷移などで絶滅したと考えられる。

【保護対策】新たな生育地が発見された場合は、立ち入りを禁止し、生育環境の保護に努める必要がある。

【特記事項】標本は亀山市歴史博物館に収蔵。

【文献】41。

（葛山博次）



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

EN

ミズチドリ

被子植物 ラン科

Platanthera hologlottis Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現在、確実な生育地は知られていない。

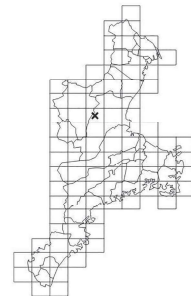
【種概要】山間の湿地にはえる多年草。葉は線状披針形で下部のものは大きい。茎は50~90 cmになり6~7月に多数の白い花を穂状につける。

【分布】国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア。国内では北海道から九州。県内では伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】いずれの記録も50~60年前のもので、ここ数十年は確認したという情報はない。花穂が大きく目立つため、ハイカー等に採取され絶滅したと思われる。

【特記事項】過去の生育地を中心に精査し、現況の把握を続けることが必要である。

（山路武夫）



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

イヌマムカゴ

被子植物 ラン科

Platanthera iinumae (Makino) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は3であるが、現存は確認できない。

【種概要】多年草。茎は高さ25~40 cm、中部に2~3個の葉をつけ、上部には少数の苞葉がある。葉は長楕円形、長さ10~15 cm、幅2.5~4 cm。花期は7~8月、穂状に黄緑色の小花を多数つける。唇弁は舌状、距は長さ1~1.5 mmで太くて短い。

【分布】日本全土。国外では中国。暖温帯から冷温帯。県内では伊賀市（1932年）、名張市（1928年）、布引山地（1902~1906年）の標本記録がある。

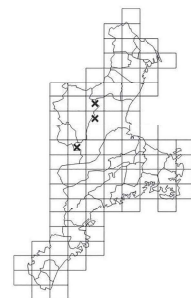
【現況・減少要因】山地の林内に生育していたと思われるが、山林伐採、林道や登山道の整備など自生地の消失により絶滅したと考えられる。

【保護対策】自生が確認された場合は、生育環境の保護に努める。

【特記事項】標本は三重県立上野高校に収蔵。

【文献】41, 69。

（岡 与一・半田俊彦）



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

EN

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツレサギソウ

被子植物 ラン科

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は極めて少なかったが、ここ50年以上生育が確認されていないことからカテゴリーをEXとする。

【種概要】山地の日当たりの良い草地または湿った林下に生育する多年生草本。高さ40~60 cm、根は粗大なひも状でその一つには芽を具える。葉は淡緑色、長楕円形で2~5個が互生する。長さ10~20 cm、巾4~7 cm、上部のものは小さくなって鋭尖頭。花期は5~6月、長さ10~20 cmの密な穂状花序につき、白色花を開く。唇弁は長さ13~15 mm、鈍頭、距は下垂し長さ3~4 cm。

【分布】国内では日本全土、国外では中国の暖温帯から冷温帯、県内ではいなべ市、伊賀市、熊野市などに分布する。

【現況・減少要因】山地の日当たりのよい湿った草地に生育し、花時には人目にふれるため、園芸目的による採取が主要因となって減少、絶滅の可能性も高い。

【保護対策】採取圧を排除するために分布情報の公表については慎重な配慮が望まれる。また、生育地の植生遷移を抑制するための高茎草本や帰化植物の刈り取りが必要である。

【文献】75。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

チャボイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

【選定理由】既知の生育地点数は1。1904年の標本記録のみでその後確認されていないため、絶滅と判断した。

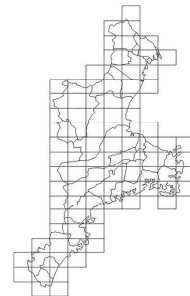
【種概要】満潮時には水没するような沿海地の湿地に生育する微小な多年草。マツバイに酷似するが、茎がより太くて軟弱、秋期には地下茎に米粒状の小塊茎を形成することが大きな特徴。中海では干拓地に出現したことが知られており、水鳥による散布をしていると考えられる。

【分布】国内では、本州、四国、九州に分布。県内では、四日市市からの記録がある。

【現況・減少要因】すでに絶滅したために不明。

【保護対策】絶滅したが、環境を整えれば鳥散布による新たな移入・定着の可能性はある。塩生湿地環境の保全や創出が前提になる。

(藤井伸二)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ノハラテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis pierotii Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は1だが、50年以上生育が確認されていない。

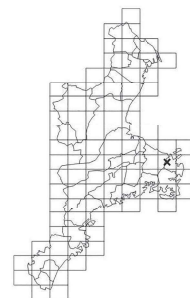
【種概要】別名をブゼンテンツキ（豊前点突）という。ノテンツキに似ているが根茎はよく発達し、横に這う。三角形の鱗片で被われ、長さ5 cmになる。

【分布】国内では本州西部から沖縄の山中草地にややまれに生育する。国外では中国、フィリピン、インドに分布。県内では鳥羽市産の標本（1936年）がある。

【現況・減少要因】鳥羽市安楽島で採取された標本1点があるが、その後生育は確認されていない。生育地は開発により大きく環境が変化しており、絶滅したものと思われる。

【特記事項】標本は京都大学総合博物館に収蔵。

(岡 与一・半田俊彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

クロタマガヤツリ

被子植物 カヤツリグサ科

Fuirena ciliaris (L.) Roxb.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

【種概要】稈は高さ10~40 cm, 2~3個の節があり、葉および花序の鱗片に長軟毛を有する。小穂は長楕円状卵形、長さ4~7 mmあり、3~10個集まって球状花序をつくり、それが各稈に2~3個ずつつく。鱗片は楕円形、長さ1.5 mm, 薄い膜室で黒味がかかった緑色、長さ1 mmの芒がある。果実は倒卵形で3稜あり、長さ0.7 mm, 柱頭は3。花被片は6個、3個は刺状で短くときになく、他の3個は平板状で果実より少し長い。

【分布】国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄、国外では台湾、中国、朝鮮半島、インド、インドシナ、マレーシアの熱帯から暖温帯。県内では標本から、四日市市(1902~1906)で記録がある。

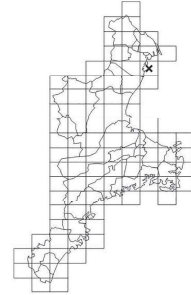
【現況・減少要因】開発や植生遷移の進行により絶滅したものと思われる。

【保護対策】県内では一世紀間、生育の情報がないが生育の可能性が全くないとは言えない。土地の開発・改変の際は植物相の精査が必要である。

【特記事項】標本は四日市楠町中央公民館に収蔵。

【文献】41。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

イトスズメガヤ

被子植物 イネ科

Eragrostis brownii (Kunth) Nees

【選定理由】既知の生育地点数は4であるが、標本が採取されてからいずれも60年以上が経過し、現在まで新たな確認情報がないことから絶滅と判断した。

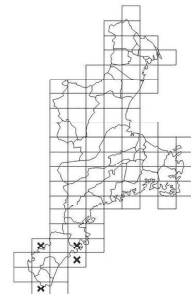
【種概要】日当たりのよい湿地に生える多年草。根茎はほとんどなく、根の基部にはタケノコの形をした翌年の新芽がある。稈は少数束生、直立、硬くて細い。スズメガヤやコスズメガヤに比べ、小穂がまばらで、全体に腺がない。

【分布】国内では本州中部以西~沖縄、小笠原、国外では中国中南部、台湾、インドシナ、インドに分布。

【現況・減少要因】熊野市(1950年代)、紀宝町(1930年代)の標本記録があるが、その後生育が確認されていない。原因は不明。標本は京都大学総合博物館に収蔵されている。

【文献】163。

(山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

コゴメカゼクサ

被子植物 イネ科

Eragrostis japonica (Thunb.) Trin.

【選定理由】既知の生育地点は3。これらの標本が採取されてから60年以上経過しているが、現在まで新たな生育情報が得られてないことから絶滅と判断した。

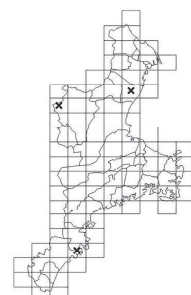
【種概要】低地の湿地に生える無毛の1年草。稈は束生、高さ50~120 cm, 葉身は長さ6~20 cm, 幅2~6 mm, 葉鞘は無毛。小穂は多数ついて卵形で、長さ1~1.5 mm, 幅1~1.2 mm, 3~5個の小花があり、淡緑色で一部紅紫色に染まる。花は8~11月。

【分布】国内では本州の暖地、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島南部、中国中南部、台湾、ヒマラヤに分布。県内では鈴鹿市、伊賀市、熊野市。

【現況・減少要因】減少要因は不明。

【文献】163。

(山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オトコゼリ

被子植物 キンポウゲ科

Ranunculus tachiroei Franch. et Sav.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。最近の情報がなく、絶滅したと考えられる。

【種概要】 川岸や田の縁など日当たりの良い泥地に生育する多年草。5～8月頃高さ35～100 cmの茎を伸ばし、径1～1.5 cmの黄色5弁花をつける。茎や葉には粗い開出毛が密生する。

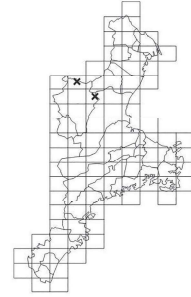
【分布】 本州（福島県以南）。県内では伊賀市で記録がある。国外では朝鮮。

【現況・減少要因】 生育環境が圃場整備による攪乱・乾田化や河川改修など絶えず人手が加わる環境下におかれ不安定化した結果、絶滅した可能性が高い。

【保護対策】 絶滅種ではあるが、生育地域の土地改変が計画される際は、環境影響評価を実施し再発見に努める必要がある。

【特記事項】 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校所蔵。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025
EX
三重県 2015
EX
環境省 2020
—

ホソバノキリンソウ

被子植物 ベンケイソウ科

Phedimus aizoon (L.) 't Hart var. *aizoon*

【選定理由】 既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。

【種概要】 多年草。花茎は1～2個で直立し、高さ20～50 cm。葉は細くて先がとがり、鋸歯は葉身の下半分にも多い。花序は多数花をつけ、花は黄色で直径10～13 mm。花期は7～9月。

【分布】 国内では北海道、本州、国外ではシベリアの冷温帯、県内ではいなべ市藤原岳（1922年、1954年）、名張市香落溪（1926年）に記録がある。

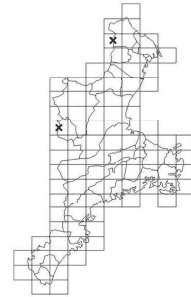
【現況・減少要因】 園芸採取により個体数は減少、また生育地の植生遷移の進行により減少し、現在はその生育が確認できない。

【保護対策】 生育している可能性もあることから、再発見された場合は採取を禁止するとともに生育地の植生遷移の進行を止める森林の間伐や枝打ちが必要である。

【特記事項】 標本は京都大学総合博物館に収蔵。

【文献】 34.

(葛山博次)



三重県 2025
EX
三重県 2015
EX
環境省 2020
—

モメンヅル

被子植物 マメ科

Astragalus reflexistipulus Miq.

【選定理由】 既知の生育地点は1であり、1955年の標本記録以降、確認されていないことから絶滅とした。

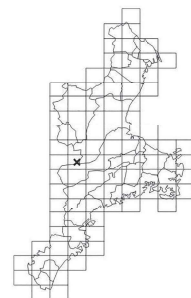
【種概要】 山麓の草地に生える多年草。茎は長く伸びて40～90 cm。小葉は13～19個、表面は無毛で、裏面に白色の短伏毛が散生する。花は6～8月頃に開き淡黄緑色、長さ13～15 mm、旗弁は他の弁より長い。最下の萼裂片は萼筒より長く、長さ4～6 mm。

【分布】 北海道、本州（広島県以東）に分布。日本固有種。県内では津市内の山間部からの記録がある。

【現況・減少要因】 減少要因は不明。

【特記事項】 三重大学附帯施設演習林に保管されている証拠標本は貴重である。

(山本和彦)



三重県 2025
EX
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ヒメノハギ

被子植物 マメ科

Desmodium microphyllum (Thunb.) DC.

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

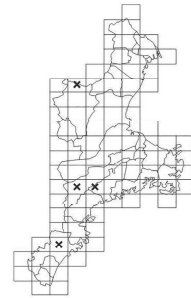
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

維管束植物
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】既知の生育地点数は4であり、現存は確認できない。
 【種概要】半灌木、枝は伸長し、小枝を生ずる。小葉は楕円形で長さ5～10 mm、側小葉はやや小形、下面に圧毛がまばらに生える。花序はまばらにつき、長さ1～5 cm。花軸は屈曲し、小花梗は繊細で、長さ5～8 mm。ともに開出する腺毛があり、花は長さ4～5 mm、紅紫色。莢は長さ15 mm、無柄、3～4個の節を持つ節果となる。花期は8～10月。
 【分布】国内では本州（中西部）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国、インド、フィリピンの熱帯から暖温帯。県内では菟野町御在所岳（1905年）、伊賀市（1944年）、大台町宮川（1950年、1951年）、熊野市（1951年）で記録がある。
 【現況・減少要因】日当たりの良い低地の草地に生育することから、生育地の改変や植生の遷移により消失したと考えられる。
 【保護対策】かつて生育が確認された地域の精査により再発見の可能性がある。その際には生育地の保全に努める必要がある。
 【特記事項】標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校、大阪市立自然史博物館に収蔵。
 【文献】69.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

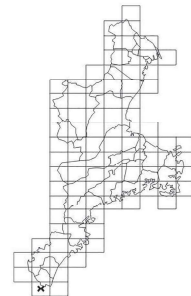
シバナム

被子植物 マメ科

Smithia ciliata Royle

【選定理由】既知の生育地点は1であり、1933年の標本記録以降、確認されていないことから絶滅とした。
 【種概要】暖地の野原にまれに生える1年草。茎は細く高さ15～40 cm、ほとんど無毛。小葉は6～14枚あり、長さ5～12 mm、幅2～4 mm、裏面と縁にまばらに剛毛がある。花期は9～10月、淡青紫色。萼は深く2裂し、隆起する脈があり、果時に長さ6～7 mm、縁には粗毛が列生する。豆果は5～7個の小節果からなり、径1～1.5 mm、まばらに乳頭状の突起がある。
 【分布】国内では本州（近畿以西）、四国、九州、国外では台湾、中国、東南アジア、インド、ヒマラヤに分布。県内では紀宝町鮎田での標本記録がある。
 【現況・減少要因】現況および減少要因は不明。
 【特記事項】1933年に採集された標本は京都大学総合博物館に保管されている。

(山本和彦)



三重県 2025	EX
三重県 2015	—
環境省 2020	DD

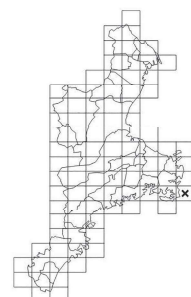
ヒロハクサフジ

被子植物 マメ科

Vicia japonica A.Gray

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
 【種概要】多年生つる草。小葉は10～14個、軟毛があり、楕円形または長楕円形、円頭または少し凹頭、長さ10～20 mm、巾6～10 mm。花序は長さ3 cm、やや多数の花をつけ、花は淡青紫色、萼には明らかな歯がある。花期は4～8月。
 【分布】国内では北海道、本州、国外では南千島、樺太、朝鮮半島の冷温帯。県内では志摩市大王町（1937年、1968年、1969年）で記録がある。
 【現況・減少要因】生育していた海浜は、護岸工事等により改変され、現在は生育が確認できない。
 【保護対策】再発見の可能性がないとは言えないので、今後、生育情報があれば生育地の保全に努めることが大切である。
 【特記事項】標本は京都大学総合博物館、鈴鹿市小林秀樹に収蔵。
 【文献】64, 69.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

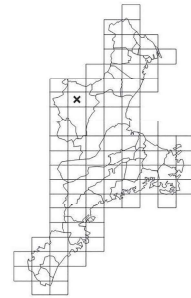
ヒナノキンチャク

被子植物 ヒメハギ科

Polygala tatarinowii Regel

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
 【種概要】茎は根元から分枝し、高さ4~10 cm、まばらに数個の葉をつける。花は横向きに咲き、長さ2 mm、淡紅色か淡紫色、萼片5のうち2片が大きく花弁のように見える。果実は扁平、径3 mm、萼片は脱落し、果実は裸出する。花期は7~10月。原野にまれに生育する一年草。
 【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、シベリアの熱帯から暖温帯。県内では伊賀市（1937年）で記録されている。
 【現況・減少要因】植生の遷移による影響や道路の拡幅工事、土地の改変などにより絶滅したと思われる。
 【保護対策】生育が確認された場合には、植生の遷移を抑制したり、土地の改変を中止するなどして保護することが大切である。
 【特記事項】標本は三重県立上野高校に収蔵。
 【文献】69.

(葛山博次)



三重県 2025
EX
三重県 2015
EX
環境省 2020
EN

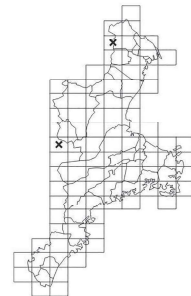
ミツモトソウ

被子植物 バラ科

Potentilla cryptotaeniae Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、1965年以降現存の確認はできていない。
 【種概要】多年草で、茎は有毛で直立し、高さ30~100 cm、開出毛がある。小葉は3個で、長さ3~7 cm、巾1.5~3 cm、両面にまばらに毛がある。花期は7~9月、花の色は黄色。茎の先は分枝して花序になり、多数の花をつける。そう果は卵状で無毛。若干のしわを有する。根出葉は花期に枯れる。
 【分布】日本全土。国外では朝鮮半島、中国、アムール。県内ではいなべ市、名張市に標本記録がある。
 【現況・減少要因】森林の伐採、山林開発、踏みつけ、植生の遷移の進行などが考えられる。
 【保護対策】本種は山地の水辺に生える多年草であることから、再生の際には、その環境の保全に万全の配慮をする必要がある。
 【特記事項】標本は三重県立上野高校に収蔵されている。
 【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025
EX
三重県 2015
—
環境省 2020
—

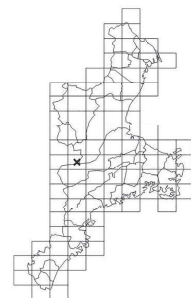
クロカンバ

被子植物 クロウメモドキ科

Rhamnus costata Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育する個体数が少なく、未知の生育地も少ないと思われる。今回の改訂でEXと判定されたが、判定後に1982年の生育情報の文献（三重の林業 185:5, 1982年）が見いだされた。よってEXではなくCRと評価するのが妥当である。
 【種概要】落葉低木または小高木。高さ7~8 m、枝はやや太く平滑。対生につく葉は長楕円形で短柄をもつ。長さ8~17 cm、幅4~9 cm。側脈は平行して17~23対、裏面に隆起する。しばしば石灰岩地に生える。
 【分布】日本固有種。本州、四国、九州の山地や岩石地に分布。紀伊半島では大台ヶ原山系に分布が知られ、県内では、津市美杉町（三重大学演習林の標高800 m近くの岩石地）で生育が確認されている。
 【現況・減少要因】林業開発にともなう伐採、植生遷移の進行による被圧、植食獣による食害などにより個体数が減少していると推測される。
 【保護対策】ニホンジカ等の植食野生獣の適正管理が必要である。
 【文献】162.

(武田明正・藤井伸二)



三重県 2025
EX
三重県 2015
CR
環境省 2020
—

ハギクソウ

被子植物 トウダイグサ科

Euphorbia octoradiata H.Lév. et Vaniot

【選定理由】1962年に既知の生育地で確認された以降、生育が確認されていない。

【種概要】海岸の砂地などにまれに生える多年草。茎に狭いへら形から倒披針形の葉をつけ、花後、茎頂の葉がキクの花を思わせるので葉菊草の名がある。

【分布】国内では東海地方に分布。現在では愛知県渥美半島だけに見られる。国外では東アジアに分布。県内では志摩市の和具大島から記録されている。

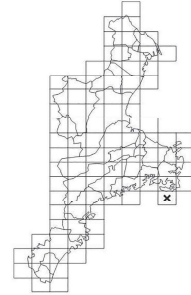
【現況・減少要因】志摩市の和具大島で1937年に標本が採取され、1962年に確認されたのち生育が不明。自然要因（高波による砂浜の変化）などにより絶滅した可能性が高い。

【保護対策】県指定天然記念物（和具大島暖地性砂防植物群落）として保護されてきた。現時点で生育が確認されていないが、再生の可能性が失われていないと思われるので、生育環境の整備・保全が必要。

【特記事項】標本は三重県立上野高校、京都大学総合博物館に所蔵。

【文献】136, 169.

(武田明正・山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

CR

ヒメノボタン

被子植物 ノボタン科

Osbeckia chinensis L.

【選定理由】紀宝町の自生地は県内で唯一の産地であったが、ここ数年間、開花個体が確認されていない。

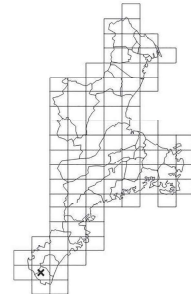
【種概要】日当たりのよい低地や山地に生える亜熱帯性の多年草または半低木。茎は直立して高さ10~30 cmで葉は対生。花期は8~9月、直径3 cmほどの可憐な紅紫色の花を咲かせる。

【分布】国内では紀伊半島南部（和歌山県、三重県）、四国、九州、沖縄。県内では紀宝町に分布。

【現況・減少要因】自生地の水田域が自然災害や耕作放棄により荒廃するなど、生育環境の劣化が著しい。最近では開花個体も見られず、これまでかろうじて生存していた数株の個体も消滅したと思われる。

【保護対策】地元の方々により自生地周辺の草刈り等、保全に向けての努力がなされてきたが残念な結果となっている。現在、開花個体は確認できないが、実生などによる生存の可能性も否定できないため、自生地の維持とその生育環境の整備が必要である。

(花尻 薫)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

ミヤマガンピ

被子植物 ジンチョウゲ科

Diplomorpha albiflora (Yatabe) Nakai

【選定理由】既知の生育地点は1。1917年の標本記録はあるが、その後確認情報はなことからEXと評価した。

【種概要】高さ1 mほどの落葉低木。本年枝は分枝せず、紫紅色を帯びて無毛。葉は対生し、葉身は長さ1~4 cm、幅1~2.5 cmの卵形。葉柄はきわめて短い。花期は5~7月。本年枝の先に白い花をふつう2個ずつつける。ときに1~4個つくこともある。萼筒は無毛で長さ約1 cm、先は4裂する。

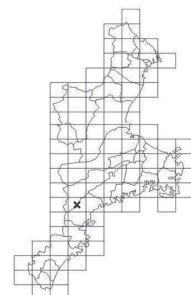
【分布】日本固有種。本州（紀伊半島）、四国、九州に分布。県内では大台町大杉谷での標本記録がある。

【現況・減少要因】不明。

【保護対策】再発見の可能性がないとは言えないので、今後、生育情報があれば生育地の保全に努めることが大切である。

【特記事項】標本は三重総合博物館に保管されている。

(山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ムジナモ

被子植物 モウセンゴケ科

Aldrovanda vesiculosa L.

【選定理由】1953年に三重県指定の天然記念物となり、また、採集された標本はあるが、1959年以降、現存は確認できない。

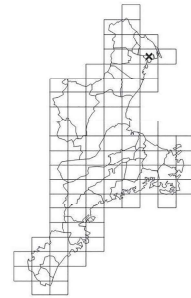
【種概要】緑色、無毛で根を持たない沈水性の水草。茎は長さ6～25 cm、1～4本の枝を出し、節には6～8個の葉が輪生、葉輪の直径1.5～2 cm。葉柄はくさび形、上部には数本の毛があって、葉身は袋状となり、ハマグリのように自由に開閉する。花は7～8月で葉腋から水面上に淡緑色の小花を開く。種子は微小で楕円状、黒色である。

【分布】国内では本州（関東から中部、近畿）。国外では朝鮮半島、中国、インド、オーストラリア、ヨーロッパ、アフリカの熱帯から冷温帯に分布。県内では桑名市長島町に記録がある。

【現況・減少要因】天然記念物指定地については、環境変化により消滅してしまい、1957年に指定解除となった。また、周辺の生育地についても1959年9月26日の伊勢湾台風により壊滅し、絶滅した。

【特記事項】標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に收藏。

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	CR

ナガバノイシモチソウ・シロバナナガバノイシモチソウ

被子植物 モウセンゴケ科

Drosera indica L. / *Drosera makinoi* Masam.

【選定理由】両種とも既知の生育地において1975年頃まで視認されたが、その後は生育が確認されていない。

【種概要】湿地に生える1年草、高さ7～20 cm。葉は狭線形で長さ4～7 cm。上面に長い腺毛が密生する。7～8月頃、総状花序に白色または淡紅色の花を3～10個つける。本県に生育していたものは赤花品と白花品の両方である。ここでは、赤花品と白花品を別種とする見解に従うこととする。

【分布】北海道、本州中部（愛知県、三重県、千葉県）、九州に分布。県内では鈴鹿市。

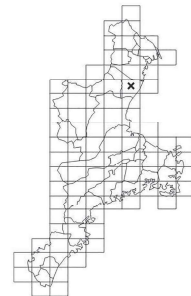
【現況・減少要因】1975年頃までは、鈴鹿市で生育が確認された。その後、生育地が都市公園整備などにより乾燥化し、生育がみられなくなった。

【保護対策】埋土種子などの発芽による再生に期待する。そのための用地と生育環境の整備が必要である。

【特記事項】前回のレッドデータブックまではナガバノイシモチソウ (*Drosera indica* L.) に合一して扱ってきた。鈴鹿市のものは小宮・柴田(1994年)に白花品と赤花品であったことが記されているので、今回の改訂では両種を併記した。標本は京都大学総合博物館、三重県総合博物館、三重県立上野高校に所蔵されている。

【文献】159.

(武田明正・藤井伸二・山本和彦)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	VU

エンシュウツリフネソウ

被子植物 ツリフネソウ科

Impatiens hypophylla Makino var. *microhypophylla* (Nakai) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数はいなべ市北勢町内の2か所であるが、現存はいずれの地も確認されていない。

【種概要】山地の林下に生える一年草で、茎は高さ30～80 cm、分枝し、多汁質である。ハガクレツリフネソウに似るが葉の巾がせまく、花は小型で長さ15～20 mm、葉色の斑点がすくないものをエンシュウツリフネソウとして区別されている。

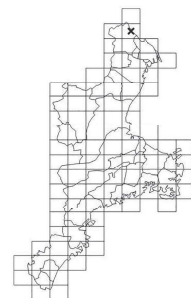
【分布】国内では本州中部地方南部。県内ではいなべ市に分布。1990年以降、生育の記録がない。

【現況・減少要因】生育地の植生遷移による環境の変化やニホンジカの食害により減少・消滅したものと推測される。

【保護対策】生育地の環境保全に配慮する必要がある。

【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	—
環境省 2020	EN

トウサワトラノオ

被子植物 サクラソウ科

Lysimachia candida Lindl.

【選定理由】1959年の標本(KYO)があり、かつて鈴鹿市に生育した記録として取り上げた。以降生育情報は無い。

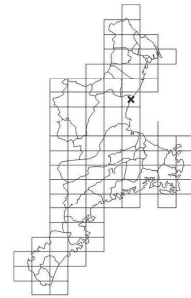
【種概要】越年1年生草本。茎は高さ約30~60 cm、上部で枝を分ける。葉は互生、倒披針形~へら形、長さ2~4 cm、鋭頭~鈍頭で全縁、基部は短柄となる。花は4~5月、茎の先端に総状花序を伸ばし、多数の5裂白色花をつける。12~18 mmの柄があり、長さ8~12 mmである。

【分布】本州(関東北部・愛知)。県内では鈴鹿市。国外では中国・東南アジア。

【現況・減少要因】湿地や休耕田などに生育し消長が強い種のようなのである。生育環境である湿地の減少など開発圧が考えられる。

【文献】166.

(市川正人)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

EN

ハイノキ

被子植物 ハイノキ科

Symplocos myrtacea Siebold et Zucc. var. *myrtacea*

【選定理由】既知の生育地点は1。1957年および1963年の標本記録はあるが、その後確認情報は無いことからEXと評価した。

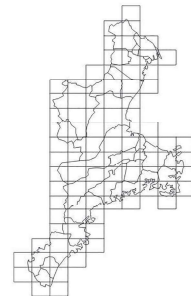
【種概要】高さ5~10 mになる常緑小高木。本年枝は淡緑色で細く、無毛。葉は互生。葉身は広卵形~卵形、長さ3~7 cm、幅1~3 cm、鈍頭の低い鋸歯があり、先端は尾状に長くともがる。葉柄は長さ約1 cm。花期は4~5月、前年枝の葉腋に散房花序をだし、直径約1.2 cmの白色の花をつける。

【分布】本州(近畿地方以西)、四国、九州(屋久島まで)に分布。県内では尾鷲市からの標本記録がある。

【現況・減少要因】不明。

【特記事項】標本は三重総合博物館、国立科学博物館に保管されている。

(山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イワヒゲ

被子植物 ツツジ科

Cassiope lycopodioides (Pall.) D. Don

【選定理由】既知の生育地は、御在所岳の藤内壁で1945年ごろ採集されて以来、採集記録及びその他の報告が無い。

【種概要】高山の割れ目などに生える常緑の小低木。葉は厚く、菱形で先は鈍く、上部の縁は膜質で白く、長さ1~1.5 mm、両面無毛である。7月ごろ葉腋にある数枚の卵形の苞に包まれた短枝の先から、長さ2~3 cmの細長い花柄を伸ばし、先に白色の一花をつけ、下向きに咲く。花冠は鐘形で長さ10 mm。高山の風当たりの強い岩のさげ目にへばりつくように生える。

【分布】北半球の寒帯や高山帯に生える。県内では菰野町、御在所岳での生育記録がある。

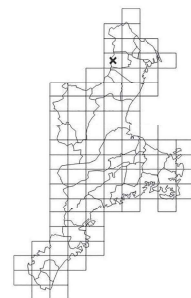
【現況・減少要因】御在所岳一帯の岩場を調査することは困難であり、岩場を登高した岳人たちからの報告もないことから現状の判断は困難である。

【保護対策】この希少な種が生育する可能性が考えられることから、入山者に対して保護・保全の必要性を訴える必要がある。

【特記事項】標本は京都大学総合博物館に収蔵されている。

【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

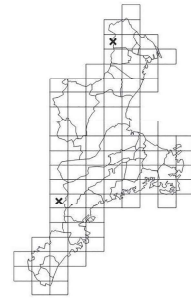
コケモモ

被子植物 ツツジ科

Vaccinium vitis-idaea L.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、生育地が限られている。
 【種概要】 高山の岩場や草地などに生える常緑小低木。高さ5~15 cm程度。長楕円形の厚い葉（長さ8~25 mm）が斜上する地上茎の全体につく。6~7月に咲く鐘形~筒状鐘形の花冠は浅く4裂。
 【分布】 北半球の寒帯を中心として広く分布。国内では北海道、本州、四国、九州。県内では、菰野町（御在所岳、国見岳）、大台町（日出ヶ岳）。
 【現況・減少要因】 1951, 1963, 1971, 1972年の文献で、生育地と記載されている御在所岳（頂上とその周辺）、国見岳、日出ヶ岳の類似の生育環境下で、生育の確認ができない。原因は不明であるが絶滅したものと思われる。
 【保護対策】 再発見の可能性がないとはいえないので、既報の生育立地の保全に努める必要がある。
 【特記事項】 三重県内での生育が文献に記録されているが、標本の所在は不明。
 【文献】 39, 63, 81, 84.

(武田明正・山本和彦)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

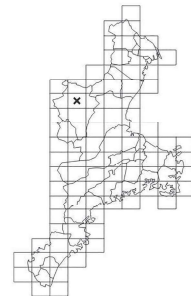
ムラサキ

被子植物 ムラサキ科

Lithospermum erythrorhizon Siebold et Zucc.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
 【種概要】 多年草。主根は太く、シニコンという色素を含み、乾くと濃赤紫色となる。茎は高さ30~60 cm、上向きの粗毛がある。葉は無柄で粗い毛があり、披針形から長楕円形、質は厚く、2~3対のはっきりした側脈がある。花は6~7月。花冠は白色、筒部短く、先は5個の丸い裂片にわかれそれぞれの裂片の基部に2個の丸いふくらみがある。
 【分布】 日本全土、国外では朝鮮半島、中国、アムールの冷温帯。県内では伊賀市（1953年）に記録がある。
 【現況・減少要因】 生育地は長年にわたり採草地であり、定期的に草刈りや野焼きが行われてきた。そうした管理がなくなり、植生遷移の進行により絶滅したと考えられる。また土地の改変も影響している。
 【保護対策】 再発見の場合は開発や採取などの人為圧から守るとともに、草刈りや野焼きを実施し、生育地の保護に努める必要がある。
 【特記事項】 標本は三重県上野高校、三重県総合博物館、京都大学総合博物館に収蔵されている。
 【文献】 24, 69, 76.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	EN

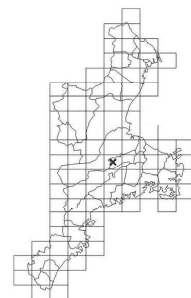
カミガモソウ

被子植物 オオバコ科

Gratiola fluviatilis Koidz.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、個体数も少なく、新たな生育地の情報は得られていない。
 【種概要】 湿地に生える1年草。茎は高さ10~20 cm、円柱形で赤紫色を帯びる。葉は倒卵形で縁に鋸歯があり、毛が多くざらつき、上面は3脈が明瞭。花は8月下旬~10月上旬。花冠は白色で径約7 mm。
 【分布】 日本固有種。京都府、兵庫県、三重県、長崎県、鹿児島県（奄美大島）のほか、最近高知県からも確認されている。県内では多気町からの記録がある。
 【現況・減少要因】 県内では多気町が唯一の生育地。1994年に池の岸辺で3個体認められたが、現在自生は確認できず、絶滅したものと思われる。
 【保護対策】 生育地周辺の環境は、大きな変化がないので、今後自生が再確認される可能性がある。生育環境が大きく改変されないよう注意が必要。
 【特記事項】 京都の上賀茂神社で1920年に採集され、その後1955年奄美大島で発見されている。さらに1993年に兵庫県で、1994年長崎県、三重県（多気町）で確認され、2003年には高知県からの報告がある。
 【文献】 2, 19, 99.

(山本和彦)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	EN

ヒシモドキ

被子植物 オオバコ科

Trapella sinensis Oliv.

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

【種概要】多年草の浮葉性水草。茎は細長く伸びて水中をただよい、節から根と葉をだす。葉は対生。水中葉は狭波針形、浮葉は三角状円形ないし腎円形、長さ2~3.5 cm、巾2.5~4 cm、辺縁には鈍鋸歯があり、先は円く、基部は開いた浅心形で3脈がある。花には通常花と閉鎖花があり、通常花は葉腋から2 cmほどの花柄をのぼし、水上に淡紅色の花を開く。花冠は筒状で長さ2~2.5 cm、先は5裂し、裂片は円頭、花期は7~9月。

【分布】国内では本州、九州。国外では朝鮮半島、中国の暖温帯から冷温帯に分布する。県内では四日市市楠町(1902~1906年)での標本記録がある。

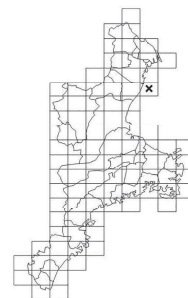
【現況・減少要因】標本が採取されてから100年以上新たな生育記録がないことから、絶滅したものと思われる。原因は不明である。

【保護対策】精査により再発見された場合は生育地を保全する必要がある。

【特記事項】標本は四日市市楠町公民館に収蔵。

【文献】42。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

EN

キセワタ

被子植物 シソ科

Leonurus macranthus Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。

【種概要】多年草。茎は直立し、高さ60~100 cm、切り口は四角形。葉は対生、長さ1~3 cmの柄があり、葉身は卵形または狭卵形、長さ5~9 cm、巾3~7 cm、辺縁には欠刻状のあらい鋸歯がある。花は葉腋に数個ずつつき、紅紫色、花冠は唇形で、下唇の中央裂片は下に曲がり、外面は密に白毛がある。花期は8~9月。花冠上唇の外側に白毛があることから、キセワタ(着せ綿)なる和名がついたという。

【分布】日本全土。国外では朝鮮半島、中国の冷温帯。県内では菰野町御在所岳(1949年)、伊賀市(1949年)の標本記録がある。

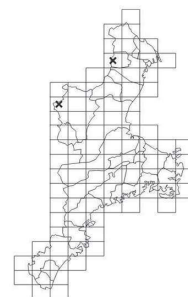
【現況・減少要因】生育地の植生遷移が進行し、生育環境が悪化したことにより絶滅したと考えられる。

【保護対策】本種は山地や丘陵地の草地に生育する。かつて人びとがカヤ場として利用してきたところで生育が可能であった。再発見された時には草地を維持するための草刈り等的人為的管理が必要である。

【特記事項】標本は三重県総合博物館に収蔵されている。

【文献】163。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

タチコゴメグサ

被子植物 ハマウツボ科

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *maximowiczii*

【選定理由】既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。

【種概要】一年草。茎は少数の枝を出し直立、高さ15~30 cm、曲がった毛がある。葉は対生、無柄、葉身は卵円形で長さ6~10 mm、巾4~8 mm、両面とも無毛、辺縁には4~7対の鋭い鋸歯がある。花は葉腋に1個ずつつき、唇形、下唇は上唇とほぼ同長、白色で紫の条がある。花期は8~9月。

【分布】日本固有種。本州(東北以西)、四国、九州の冷温帯。県内ではいなべ市の藤原岳(1950年)、藤原町山口(1950年)で採集による標本記録がある。

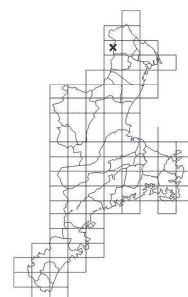
【現況・減少要因】山地の日当たりのよい草地に生育するが、生育地の植生遷移の進行により絶滅したと考えられる。

【保護対策】精査により再発見の可能性もあり、その際には、定期的な草刈りにより草地の維持に努める必要がある。

【特記事項】標本は三重県立上野高校に収蔵。

【文献】69, 163。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

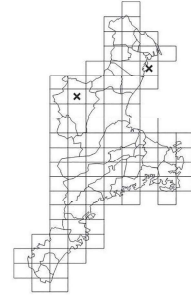
ハマウツボ

被子植物 ハマウツボ科

Orobanche coeruleus Stephan ex Willd.

【選定理由】既知の生育地点数は2だが、50年以上生育が確認されていない。
 【種概要】海岸や川原の砂地に生え、ヨモギ属の根に寄生する一年草。茎は黄褐色、太く直立して10~25 cm、5~7月に淡紫色の花をつける。
 【分布】国内では北海道から沖縄、国外では中国、朝鮮半島、シベリア、ヨーロッパ東部に分布。県内では伊賀市、四日市市で記録がある。
 【現況・減少要因】三重県産生物目録(1951年刊)には四日市市富田浜および伊賀市服部川川原に生育するとされているが、それ以降の記録はなく、絶滅したと思われる。
 【特記事項】伊賀市産標本(1937年)は三重県立上野高校に収蔵。

(岡 与一)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	VU

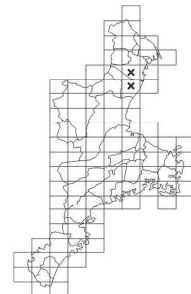
コタヌキモ

被子植物 タヌキモ科

Utricularia intermedia Heyne

【選定理由】既知の生育地点数は2であるが、現在の生育確認情報はない。周辺に期待できる生育環境はなく引き続き絶滅とした。
 【種概要】湿原や池沼の泥土上の水湿地に生える沈水性の多年草。根はなく、茎の長さは20 cmまでである。水中茎に葉はやや密につき、葉身は二股状に数回分裂し、全体の形が扇形となり、ほとんど捕虫囊はつけない。地中茎は捕虫囊だけをつける。花を6~9月頃につけるが、果実はできない。越冬芽を形成する。
 【分布】北海道、本州、九州。県内では四日市市・鈴鹿市・伊賀市に記録がある。国外では朝鮮。
 【現況・減少要因】かつて四日市市・鈴鹿市・伊賀市に生育したが、絶滅したようである。
 【保護対策】環境が整えば復活する可能性がある。

(市川正人)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	—

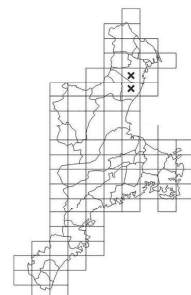
ヒメミミカキグサ

被子植物 タヌキモ科

Utricularia minutissima Vahl

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、現在、確かな生育地はない。
 【種概要】泥湿地に生育する小さな多年草。地上葉は線形。花茎は1~3 cm。花期は8~10月、淡紅紫色の花をつける。糸状の地下茎が地中を這い、捕虫囊をまばらにつける。
 【分布】国内では本州(東海地方)。県内では四日市市(1950年)、鈴鹿市(1950年、1955年)で記録がある。
 【現況・減少要因】はっきりした記録はいずれも50年以上前のものであり、現況は不明である。しかし最近の状況からは、絶滅したと思われる。遷移の進行やマニアによる採取がその要因と思われる。
 【保護対策】四日市市、鈴鹿市の過去の生育地では湿地の保全や再生に向けた活動が精力的に行われている。再発見の可能性は高いと思われる。
 【特記事項】両生育地とも国指定天然記念物である。標本は大阪市立自然史博物館にも所蔵されている。

(山路武夫)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EX
環境省 2020	EN

ミヤマウメモドキ
Ilex nipponia Makino

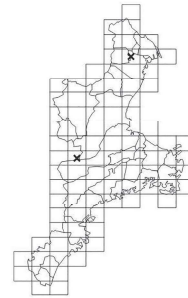
被子植物 モチノキ科

【選定理由】既知の生育地点数は2か所であるが、現状では確認できないことからEXとした。

【種概要】山地の湿地に生える落葉低木。葉は倒披針状楕円形で、ふつう中部から上の部分の幅が広い。花柄や果柄はウメモドキより長い。6月に花を咲かせ、秋に球形の果実は赤熟する。

【分布】国内では東北地方、中部地方中北部、近畿地方北部に分布。岐阜県の湿地では普通にみられる。県内では菰野町、津市で記録があった。なお、熊野市の記録は誤りと判明した。

【現況・減少要因】国指定の天然記念物となっている菰野町のシデコブシ群落の中に1個体生育していたが、伐採され現在存在しない。津市にも情報はあがるが、生育環境に疑問があり、再調査が必要であり、認められない状況である。
(山脇和也)



三重県 2025	EX
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ

シデシャジン
Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.

被子植物 キキョウ科

【選定理由】北勢地域3か所からの標本はあるが、50年以上確認されていない。

【種概要】山地に生える多年草。全体に粗毛が散生する。茎は直立、高さ50～100 cm。根茎は横にはう。葉は長卵形で両端が尖り、互生である。夏から秋、茎上部で分枝し、総状花序を作って紫色花を開く。花冠は基部から5深裂、裂片は線形で、長さ約1 cm、反曲し、離弁状に見える。雌しべの花柱は長くつきだし、柱頭は3裂、雄しべは5個。

【分布】国内では本州、九州。国外では朝鮮半島、中国北東部、ウスリー、アムール。県内では北勢地方で、50年前の標本はあるが、現存は確認されていない。

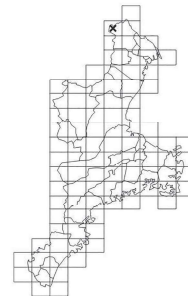
【現況・減少要因】生育環境に適した日当たりの良い草地が、山林開発や林道工事などによって消失していることが考えられる。

【保護対策】生育域が限定されている上、個体数も少ないことが滋賀県からも報告されている。再生の際は、生育環境の保全に努める必要がある。

【特記事項】鈴鹿山脈西側の永源寺町、多賀町や伊吹山には生育している。標本は三重県総合博物館に収蔵されている。

【文献】163.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	—
環境省 2020	—

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

バアソブ
Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsley

被子植物 キキョウ科

【選定理由】かつて、県の中・南勢、伊賀に分布していたが、生育地への人為圧、生育環境の変化等により、ここ50年以上確認されていないことから、カテゴリーをEXとする。

【種概要】山林の縁や原野に生育するつる性の多年草。地下には短く、大きい球状の根茎があって、一種の臭気を出す。茎は細くてやわらかい。切れば白い乳液を出し、若いときは葉と共に白毛が多い。葉は短枝上に4枚が接してつき、複葉のように見えることはツルニンジンに似るが、毛のあることが異なることと、種子が黒褐色で翼がなく光沢があることで区別される。花期は7～8月、花冠は直径2 cm内外。

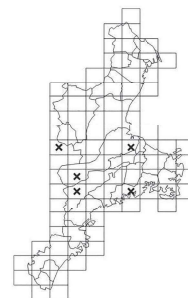
【分布】日本全土。国外では朝鮮半島、中国、ウスリー、アムールの冷温帯。県内では名張市、明和町、大台町宮川、南伊勢町に分布する。

【現況・減少要因】丘陵地や低山地の谷戸田周辺の草地などの生育地は土地改変などの影響を受けやすく、また植生遷移の進行により消失している。

【保護対策】生育地の改変を抑制し、また、草地の放棄による植生遷移の進行を止める定期的な草刈りにより、存続可能な環境を維持する必要がある。

【文献】69, 139.

(葛山博次)



三重県 2025	EX
三重県 2015	CR
環境省 2020	VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ノコギリソウ

被子植物 キク科

Achillea alpina L. var. *longiligulata* H.Hara

【選定理由】2005年にはDD（情報不足）として記載し、その後、現在に至るまで本種が確認されなかったことから絶滅とした。

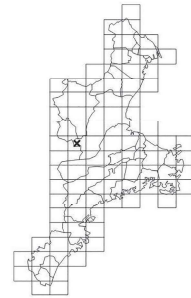
【種概要】山地の草原に生える多年草で、茎は高さ50~100 cm、葉は無柄で基部は茎を抱き、葉身はくし歯状に中裂し、裂片には鋭鋸歯がある。頭花は白色で7~9月に開花、茎頂に密な散房花序をつくり、径7~9 mm、舌状花は長さ3.5~4.5 mm。総苞は球鐘形で長さ、幅ともに5 mm内外。そう果は長さ3 mmで無毛。

【分布】国内では、本州・北海道の冷温帯・寒帯に分布する。県内では、桑名市、菰野町、伊賀市、名張市、度会町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】生育地の植生の変化や捕食者の侵入により絶滅した可能性が高い。

【保護対策】現時点では生育が確認できないが、再生の可能性も失われていないと思われるので、生育環境の整備が必要である。

【特記事項】本種は、1950年百永章が名張市尼ヶ岳で採集した標本（三重県総合博物館に収蔵）以降、確実な記録がないことから絶滅したと考えられる。
(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

モリアザミ

被子植物 キク科

Cirsium dipsacolepis (Maxim.) Matsum. var. *dipsacolepis*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、生育地である草地の改変や植生の変化により、現在は本種の生育が確認できない。

【種概要】乾いた草原に生える多年草。根は太く垂直に伸び直径2 cmほど。茎は高さ50~100 cm。下部の葉は長柄があり、柄を含めて長さ15~20 cm、葉身は長楕円形または卵形で洋紙質、しばしば羽状に切れ込む。頭花は花期に直立、総苞片は中部で2~3 mm、外片と内片は同長で、斜開する。果実は下部が黒紫色、上部が黄白色、花期は9~10月。

【分布】日本固有種。本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯。県内では伊賀・名張地域の標本記録がある。

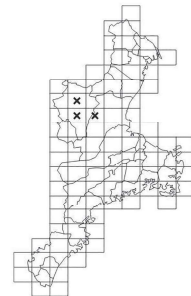
【現況・減少要因】山地の乾いた草原に生育する。生育地の草地が土地の改変や植生遷移の進行で消滅したと考えられる。

【保護対策】既知の生育地の草地を回復することが必要である。

【特記事項】伊賀・名張地域産の標本は、三重県総合博物館および三重県立上野高校に収蔵されている。

【文献】69。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

カセンソウ

被子植物 キク科

Inula salicina var. *asiatica* Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが長期にわたって記録がなく絶滅したのと考えられる。

【種概要】日当たりの良いやや湿潤な草地環境に生育する多年草。草丈60~80 cmに達し、7~9月頃に黄色の頭花を着ける。葉縁には小歯牙がある。

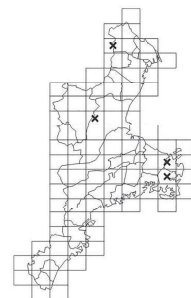
【分布】北海道~九州。県内では伊賀市・いなべ市などの記録がある。国外では朝鮮・中国・シベリア。

【保護対策】土地造成・開発など土地改変の際には環境影響評価を実施し出来る限り環境保全に配慮する。

【特記事項】標本は三重県立上野高校所蔵。

【文献】34。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

ホソバニガナ

被子植物 キク科

Ixeridium beauverdianum (H.Lév.) Spring.

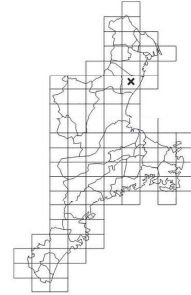
【選定理由】1955年の標本(MIE)があり、かつて鈴鹿市に生育した記録として取り上げた。以降の記録はない。

【種概要】日当たりの良い湿地に生育する多年草。茎は約20~65 cm。葉は約5~20 cmで無毛線形、幅は3~8 cm、下部は根生的で茎を抱かない。花は5~6月、径6~7 cmと小さく、総苞は長さ4~5 cmである。瘦実は長さ4 cm、冠毛がある。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。県内では鈴鹿市。国外では中国・ベトナム・ヒマラヤ。

【現況・減少要因】カテゴリは絶滅であるが、溜池内周辺など湿地環境に新産地が期待される。湿地の埋め立てが減少要因である。

(市川正人)



三重県 2025

EX

三重県 2015

—

環境省 2020

EN

タカサゴソウ

被子植物 キク科

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

【選定理由】既知の生育地点数は3であり、現存は確認できない。

【種概要】多年草。茎は直立、高さ20~40 cm。根生葉は倒披針形か長楕円状披針形で、長さ8~24 cm。葉はまばらに鋸歯があるかまたは羽状に浅裂する。茎葉は茎の下部に集まり、基部はやじり形とならない。頭花は直径2 cm、20~30個の舌状花からなる、青みを帯びた白色花。花期は4~6月。

【分布】国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島の暖温帯から冷温帯に分布する。県内では伊賀市および熊野市で標本記録がある。

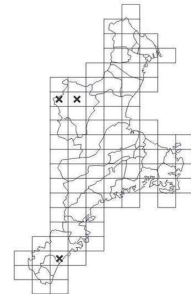
【現況・減少要因】日当たりの良い野原や山麓に生育する、そうした生育地は開発により失われた。また生育地の管理放棄により植生遷移など環境の変化で絶滅したと考えられる。

【保護対策】生育が確認された場合には、生育地の改変を抑止するとともに、遷移の進行を抑える草刈りなどの人的管理が必要である。

【特記事項】標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に收藏。

【文献】69。

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

ヒメヒゴタイ

被子植物 キク科

Saussurea pulchella (Fisch.) Fisch.

【選定理由】既知の生育地点数が5以下であるが50年以上生育が確認されていない。全国的にも減少が著しい種で、県内では絶滅したと考えられる。

【種概要】日当たりのよい草原に生育する多年草。草丈30~150 cmになり、8~10月頃、上部でよく分枝して多数の頭花をつける。葉の両面に細毛と腺点がある。

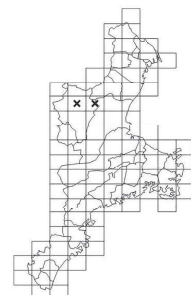
【分布】北海道~九州。県内では亀山市・伊賀市で記録がある。国外では朝鮮・中国・東シベリア・樺太。

【現況・減少要因】本種が生育する草原環境が放棄され、植生遷移進行により森林化したことで減少・絶滅した。

【保護対策】本種に限らず同環境生育種の持続には、草刈や火入れによる草原環境の維持・管理が必要である。ニホンジカの食害対策も必要であろう。

【特記事項】亀山市・伊賀市産標本共に三重県総合博物館所蔵。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

キクアザミ

被子植物 キク科

Saussurea ussuriensis Maxim. var. *ussuriensis*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であるが、50年以上生育情報はなく絶滅したと考えられる。

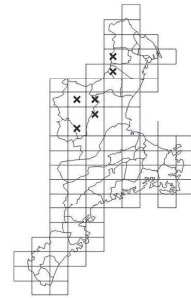
【種概要】日当たりのよい山地の草原に生育する多年草。葉は深く切れ込み、花時に根出葉が残る。9～10月頃、30～120 cmの茎を伸ばし、頭花を散房状に着ける。花柄は短い。総苞は長さ12 mm内外でくも毛がある。

【分布】本州(福島県以西)・九州。県内では菰野町・亀山市・伊賀市に記録がある。国外では朝鮮・中国・ウスリー。

【現況・減少要因】植生遷移による生育環境の消失の結果、絶滅したと思われる。

【保護対策】本種に限らず同環境生育種の持続には、草刈や火入れによる草原環境の維持・管理が必要である。ニホンジカの食害対策も必要であろう。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

—

オナモミ

被子植物 キク科

Xanthium strumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

【選定理由】既知の生育地は県内全域に及んだが、現存は確認できない。また情報もない。

【種概要】一年草。オオオナモミにくらべ、つぼ状体は小さく、長さ8～14 mm、巾6～8 mm。とげはまばらで、その面には細毛を密生して光沢はない。つぼ状体は熟すると灰褐色となる。花期は8～10月。

【分布】国内では日本全土、国外では台湾、中国、朝鮮半島、欧州大陸、北米などの熱帯から冷温帯。県内では標本記録から、かつては全域に分布した植物である。

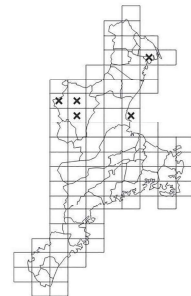
【現況・減少要因】1929年、岡山県にて記録されたオオオナモミが年ごとに増殖。先住のオナモミとの交雑が確認されており、交雑個体での稔性が低下するという考えも報告されていてオナモミは全国的に激減しており、西日本ではほぼ絶滅に近い状態といわれている。

【保護対策】現存が確認された場合は、その生育地周辺のオオオナモミ、イガオナモミを除去しオナモミとの自然交雑をしないように保護する。あるいはオナモミを同属花粉の影響を受けないよう生育環境を保全する。

【特記事項】標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校等に収蔵されている。

【文献】34, 57, 69, 89.

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

コウゲイスカグラ

被子植物 スイカズラ科

Lonicera ramosissima Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

【選定理由】1969年に藤原岳で確認された以降、生育が確認されていない。

【種概要】高さ2 mに達する落葉低木。葉は対生し、葉身は長さ2～6 cm、幅1～3 cmの卵形～長楕円形。4～5月に葉腋から細長い花柄を伸ばし、その先端に淡黄白色の花を2個ずつつける。果実は液果で7月に赤く熟す。

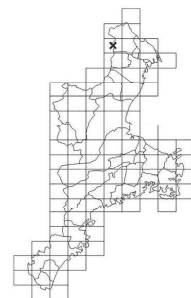
【分布】国内では本州、四国の山地に分布。県内ではいなべ市の藤原岳から記録されている。

【現況・減少要因】藤原岳で1922年に標本が採取され、その後1969年にも標本が採取されているが、近年生育が確認されていない。ニホンジカの採食などにより絶滅した可能性が高い。

【保護対策】ニホンジカの採食圧が軽減されると再生する可能性も考えられるので、藤原岳の自然環境を最低限、現在の状態で保全する必要がある。

【特記事項】今回の改訂にあたり信頼のおける標本記録にもとづき、現況に合わせ、情報不足 (DD) から変更した。標本は京都大学総合博物館に所蔵。

(山本和彦)



三重県 2025

EX

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ミシマサイコ

被子植物 セリ科

Bupleurum stenophyllum (Nakai) Kitag. var. *stenophyllum*

【選定理由】過去（1902～1906年）に採集された標本はあるが、現存は確認できない。

【種概要】多年草。茎は高さ30～70 cm，上部で分枝。葉は根出するか互生。根出葉には長い柄があるが茎葉は無柄。葉身は単葉で狭披針形から線形，長さ4～15 cm，幅0.5～15 mm，硬く全縁で平行脈がある。花序は複散形で小形，枝の先につき，花は黄色で小花序に5～10個。果実は球形，熟すと褐色。花期は8～10月。

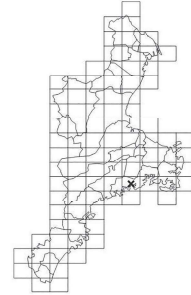
【分布】国内では本州，四国，九州，国外では朝鮮半島の暖温帯に分布。県内では標本から度会郡能見坂で記録がある。

【現況・減少要因】本種は一般には日当たりのよい草地に生育する。そうした草地が人々の農林業からの離反により放置され，遷移が進行し森林化したために絶滅したと思われる。

【特記事項】標本は四日市市楠町公民館に収蔵。

【文献】42.

(葛山博次)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヌマゼリ

被子植物 セリ科

Sium suave Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は1だが，すでに絶滅したと考えられる。

【種概要】高さ60～120 cmになる全体無毛の多年草。茎の基部から地表または地中に走出枝を出す。茎および葉柄は中空。葉は単羽状複葉（ときに3出葉）で，粗い鋸歯がある。花は白色で，7～9月に開花。果実は倒卵形，油管は約10本。本種は寒地性の植物であり，ドクゼリ，ミツガシワ，サギスゲと同様に氷期の遺存植物と思われる。

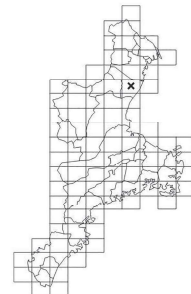
【分布】国外では朝鮮半島，中国。国内では北海道から九州。県内では鈴鹿市広瀬野（現，広瀬町周辺）での1928年の標本記録がある。西日本では富栄養の湿地に非常にまれに生育する。

【現況・減少要因】唯一の生育地であった鈴鹿市から絶滅したと思われる。広瀬野の丘陵地には，かつては広大な雑木林があったとされるが，軍の飛行場建設とその後の農地・工場用地の開発によって消失した。おそらく丘陵に点在する谷津や凹地などの微小地形に湿地が成立していたのであろう。

【特記事項】三重県総合博物館に保管されている証拠標本はたいへん貴重。

【文献】10.

(藤井伸二)



三重県 2025

EX

三重県 2015

EX

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメビシ

被子植物 ミソハギ科

Trapa incisa Siebold et Zucc.

【選定理由】2017年に津市内の太陽光発電施設開発に伴う環境アセスメントで確認されたものが確実な唯一の生育地であったが，その後，同開発によって生育地は消失。生育個体は施設内の別の箇所に移植されたことから，野生絶滅とした。

【種概要】池沼に生育する一年生の浮葉植物。ヒシ属の他種よりも全体的に小型で，葉や葉柄はほとんど無毛。石果には4個の刺がある。

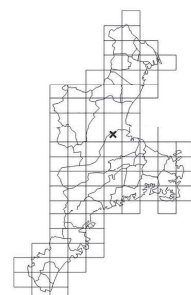
【分布】東アジアに分布し，国内では本州，四国，九州。県内では伊賀市，紀北町，熊野市で標本記録があるが，前述の津市内の生育地が現存する唯一の生育地であったと考えられる。

【現況・減少要因】本来の生育地は消失したが，環境アセスメントの事後調査報告書によれば，2022年時点で移植個体は維持されている模様である。今回の事例のみから過去の減少要因を推定することは難しいが，開発による生育環境の消失のほか，アメリカザリガニ等の外来生物による食害が考えられる。

【保護対策】現在移植先において生育している個体の保全に最大限の配慮を講じるとともに，増殖にも取り組むことが望まれる。また，周辺に残されている未知の生育地の探索と保全も必要と考えられる。

【文献】163.

(細川健太郎)



三重県 2025

EW

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

スズムシバナ

被子植物 キツネノマゴ科

Strobilanthes oligantha Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は2以下で、生育地は道路改修などにより現在は確認できない。

【種概要】根茎から直立する茎を数本伸ばしてまばらに分枝。高さ40～80 cm。節や若い葉には白い長毛が生える。葉は対生し、葉身は広卵形から三角状広卵形、縁に粗い鋸歯がある。葉柄は1.5～5.5 cm。花は9～10月。枝先に無柄の花を数個頭状につける。花冠は淡紫色、長さ3 cmほどで外面上方に軟毛があり、筒部は曲がって横向きに咲く。午前中に咲き、午後には萎む一日花である。

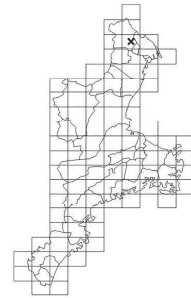
【分布】国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。県内では、いなべ市に自生の記録がある。

【現況・減少要因】温帯の山林や湿潤な谷筋の林縁部・木陰に生育するが、本種の自生が確認されたのは2007年であり、その後、2010年ころまでは野生が見られていたが、県内の生育地は林縁部で道路に接し、改修工事で消滅し、現在は生育が確認できない。

【保護対策】自生地周辺を定期的に観察し、再発見に努めるとともに、植栽された個体の存続に十分な配慮を行う。

【文献】58.

(葛山博次)



三重県 2025

EW

三重県 2015

EW

環境省 2020

—

トウヒ

裸子植物 マツ科

Picea jezoensis (Siebold et Zucc.) Carrière var. *hondoensis* (Mayr) Rehder

【選定理由】既知の生育地点は5以下。過去の個体数の減少率が高い。近年は野生植食動物による食害が著しく、更新が困難になっている。

【種概要】高山性常緑針葉樹。樹高約30 m。幹の直径は1 mにもなる。葉は線形で長さ10～20 mm程度。葉身は扁平で、片面に白い気孔帯が2条ある。球果は枝先に下垂する。

【分布】日本固有種。国内では本州中部の亜高山帯と紀伊半島の台高・大峰山系の標高約1,500 m以上に分布。県内では大台町の高標高地に限定。

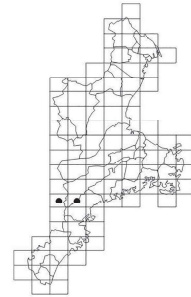
【現況・減少要因】大台ヶ原山（正木ヶ原ほかの斜面）にコメツガ、ウラジロモミ、ヒノキ、イチイなどと混生。近年、生育地では、台風等の災害やニホンジカの食害により個体数の減少が著しい。

【保護対策】野生植食動物の食害を防ぎ、現存する母樹と後継樹（稚幼樹）の保全に努める必要がある。県内の生育地は国有林で大杉谷生態系保護地域に含まれている。

【特記事項】紀伊半島の個体群は我が国における分布南限。

(武田明正)

(写真：奈良県，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

イブキ

裸子植物 ヒノキ科

Juniperus chinensis L.

【選定理由】古い標本記録（1910年代，1951年）しかなく情報不足とされていたが、近年、大紀町で新たな産地が確認された。個体数は5以下である。

【種概要】常緑の高木性針葉樹。主幹はねじれ、太い枝が多数出て、不規則な卵形の樹冠となる。樹皮は赤褐色で縦裂し、薄片となつてはげる。葉には、針形と鱗形の2型があり、老木ではほとんど鱗形葉のみとなる。

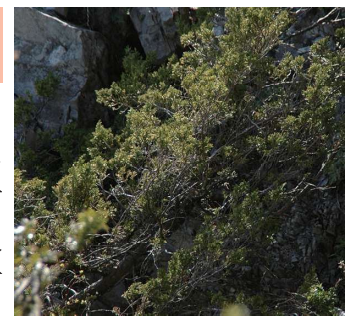
【分布】本州（岩手県以南）、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮、中国に分布。県内では大台町、伊勢市、大紀町で記録されている。1933年に津市一志町波瀬で採集された標本もあるが、これは栽培されていたものと思われる。

【現況・減少要因】主幹の上部が枯れている個体もみられ、生育状況は良好ではない。また周囲には幼木も見当たらないため、自生地の存続が危惧される。

【保護対策】盆栽用などに採取されるなど、採取圧が高いため、自生地の詳細は未公表とする。

(山本和彦)

(写真：大紀町，2007年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

非公表

ミヤマビャクシン

裸子植物 ヒノキ科

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A.Henry

【選定理由】既知の生育地点は5以下。自生する個体の多くは園芸用に採取され、現存する個体数はわずかである。

【種概要】低木性常緑針葉樹。幹は屈曲して地上を這い、枝は斜上して開出。高さは1m以下。葉には針形（幼木）と鱗形（老木）の2型がある。

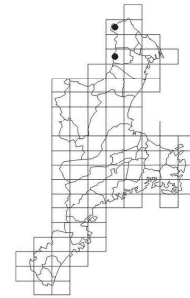
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州の山地。国外では樺太、南千島、朝鮮半島にも分布。県内では菰野町（鈴鹿山脈御在所岳ほか）、いなべ市などに分布記録がある。

【現況・減少要因】採取が容易にできるところに生育していた個体の多くは、盆栽用などに採りつくされたものと思われる。現在は近寄ることが困難な岩壁などに残るのみである。

【文献】81, 135.

(武田明正)

(写真：滋賀県，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

オニバス

被子植物 スイレン科

Euryale ferox Salisb.

【選定理由】生育の確認されている地点は5であるが、近年の発芽はない。

【種概要】直径1m以上にもなる円形の浮葉をつける1年草。8~10月に閉鎖花と紫色の開放花を咲かす。種子はゼリー状のものに包まれ、浮遊する。植物体全体に多数の鋭い棘がある。

【分布】本州（宮城県以南）から九州。県内では桑名市、津市、志摩市で記録がある。池沼や用水路など、どちらかというと言葉な水環境に生育する。

【現況・減少要因】桑名市の用水路では1987年から2004年まで継続的に発芽しており、津市の溜池では2004年に50年ぶりの発芽が見られた。志摩市の池沼における記録は50年以上前のものである。いずれの生育地でも、環境そのものに大きな変化はないが、用水路の泥上げや池干し等をしなくなったことで、発芽する条件が整わないものと思われる。

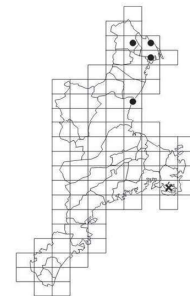
【保護対策】本種の保全を目的として用水路の整備を行うことで、埋土種子の発芽を促すとともに、地元有志により保護栽培されている個体の野外復帰を進める。また、その際には新芽を採食するアカミミガメの駆除もあわせて行う必要がある。

【特記事項】三重県指定希少野生動植物種。

【文献】88.

(清水善吉)

(写真：桑名市（栽培），2016年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

スエヒロアオイ

被子植物 ウマノスズクサ科

Asarum dilatatum (F.Maek.) T.Sugaw.

【選定理由】既知の生育地点数は1で、250未満の個体数しかない。また、地域固有性が著しく強く、マニアによる採取圧もある。

【種概要】全形はヒメカンアオイに近いが、萼筒が深い皿形になって、先に向かって開いていることで区別される。

【分布】日本固有種（鈴鹿山脈が基準産地）。本州の近畿地方、中部地方に分布。県内では亀山市、鈴鹿市で記録がある。

【現況・減少要因】地域固有性があるため、マニアによる採取圧もきわめて強い。また、山頂まで自動車道が完成したこと等も原因となって、生育環境が悪化している。

【保護対策】現時点では、分布情報等については公表しないで静観する以外に良策はない。また、林道改修等の土木工事は、市の関係部署が連携をとって当該種の生育に影響がないかよく検討のうえで実施する必要がある。

【特記事項】標本は上野高校および大阪市立自然史博物館に収蔵。

【文献】71.

(加田勝敏)

(写真：亀山市，2024年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ジュロウカンアオイ

被子植物 ウマノスズクサ科

Asarum kinoshitae (F.Maek. ex Kinoshita) T.Sugaw.

【選定理由】 既知の生育地点数は1であり、およそ250未満の個体数しかない。

【種概要】 萼筒は長く、中部がくびれる。萼筒と萼裂片の接合部が漏斗状に萼筒の内側に反り込む。花柱の付属体は深く2裂し、萼裂片には小突起がある。

【分布】 日本固有種。尾鷲市の山中に生育する。

【現況・減少要因】 本種は1973年に木下慶二氏により発見され、1976年に新種として発表されている。今のところ、尾鷲市が唯一の生育地となっている。発見当時は、斜面に多くの個体が生育していたそうだが、山草業者やマニアにより乱獲され激減した。現在も盗掘が絶えない。

【保護対策】 2016年には三重県指定天然記念物に、2018年には特定第1種国内希少野生動植物種（環境省）に指定されている。今後更なるパトロール強化が必要である。

【特記事項】 三重県指定天然記念物、特定第1種国内希少野生動植物種。

【文献】 62.

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2014年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

ホロテンナンショウ

被子植物 サトイモ科

Arisaema cucullatum M.Hotta.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数はごくわずかであると思われる。

【種概要】 山地の林下に生える。葉は1個で、葉軸はあまり発達しない。小葉は鳥足状に7~13枚つき、披針形から狭長卵形。偽茎は短い。仏炎苞の舷部と口辺部は内側に少し巻いてほろ状となり、先は急に狭まって尾状に伸びる。花期は5~6月。

【分布】 国内では奈良県、三重県。県内では鈴鹿山系鎌ヶ岳に過去（1962年）の記録がある。大台町では1984年に確認されている。

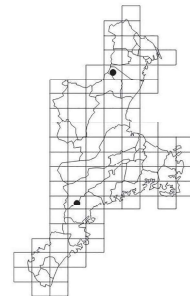
【現況・減少要因】 最近では大台町大杉谷で1個体の確認があるのみである。大台ヶ原の奈良県側は、個体数は多くはないが点々と見られる。園芸採取などによる減少が大きい。

【保護対策】 国立公園内であるので、開発のおそれは低い。採取などされないように保護しなければならない。

【特記事項】 特定第1種国内希少野生動植物種。

(山脇和也)

(写真：奈良県，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR

マイヅルテンナンショウ

被子植物 サトイモ科

Arisaema heterophyllum Blume

【選定理由】 既知の生育地点数は1、個体数は50未満。園芸的な採取圧が強く、生育環境の悪化が顕著。

【種概要】 草原や河辺林などに生育する多年草。高さ60~120 cmで、球茎に子球を形成して栄養繁殖を行う。葉は1枚で鳥足状に17~21枚の小葉をつける。小葉は狭倒卵形~線形、全縁。頂小葉は両隣の小葉に比べて著しく小形でやや幅広。仏炎苞はふつう緑色で一部紫色を帯びる。舷部は広卵形で、基部は著しく狭まり、先は尾状に長く伸びて鋭く尖る。付属体は基部近くで前方に曲がり、上方に向かって長く伸びる。

【分布】 国内では、本州から九州、種子島に分布。国外では、台湾、朝鮮南部、中国に分布。園芸採取圧が高く、分布は非公表とする。

【現況・減少要因】 乾燥化と遷移による生育環境の劣化が進行。

【保護対策】 園芸的な採取の監視・抑制が必要。自生地は乾燥化による遷移が進行しており、人為的な管理による遷移抑制を行う必要がある。

【特記事項】 三重県指定希少野生動植物種。

【文献】 13.

(藤井伸二)

(写真：津市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

ヒメザゼンソウ

被子植物 サトイモ科

Symplocarpus nipponicus Makino

【選定理由】既知の生育地点数は1地点。個体数は50以下であり、土砂の流出・堆積が危惧されるような状況下で生育している。

【種概要】林縁や道端の湿地に生え、形態はザゼンソウに比べかなり小形で、6月に暗紫褐色の小さな仏炎苞のある花を地表付近に咲かせる。

【分布】北海道、本州（東北地方から中国地方の日本海側・関東地方から中部地方）。県内ではいなべ市（隣接の滋賀県・岐阜県にも分布）。国外では朝鮮。

【現況・減少要因】溪流辺から斜面下部にかけて生育しているが、土砂崩壊の危険性がある。

【保護対策】砂防工事など土地改変時には、関係者に対して周知徹底を図るとともに生育環境に影響が及ばないような配慮が必要である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

マルバオモダカ

被子植物 オモダカ科

Caldesia parnassiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】湖沼、溜池、水田に生える浮葉から抽水性の多年草。水中葉は楕円形で小さい。水上の葉は円心形で長さ5.5~13 cm。花茎は高さ30~100 cm，3枝を輪生し各枝はさらに数個の花柄を輪生する。花期は8~9月。

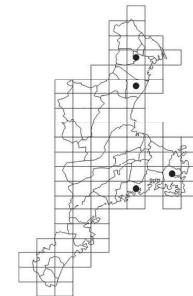
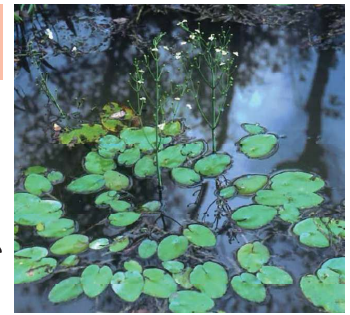
【分布】国内では本州から奄美，国外では中国，インド，オーストラリア，マダガスカルに分布。県内では桑名市，四日市市，伊勢市，志摩市，南伊勢町からの記録がある。

【現況・減少要因】南伊勢町および志摩市以外の産地は，古い標本記録によるもので，すでに絶滅していると思われる。南伊勢町道方浮島の池では，2000年頃まで確認されていたが，その後消滅。池に放されたコイやカモ類の食害や水質の汚濁が原因と思われる。なお浮島は県の天然記念物に指定されている。

【保護対策】浮島の水草相回復には，水質の浄化とともにコイや水鳥による食圧を排除することが必要である。早急に浮島と池の自然環境を保全するための計画案を策定し，実施することが肝要である。

(山本和彦)

(写真：南伊勢町，1998年)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マルミスブタ

被子植物 トチカガミ科

Blyxa aubertii Rich.

【選定理由】既知の生育地点数は1。個体数は50未満である。生育地の改変圧が有り得る。

【種概要】溜池や水田などに生育する一年生の沈水植物。スブタと同じ形態であるが，種子に尾状突起が発達しない特徴がある。

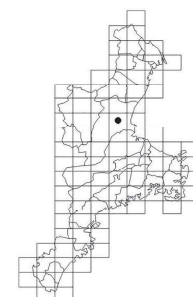
【分布】本州，四国，九州。県内では津市に記録がある。国外ではアジア東部，インド，スリランカ，オーストラリア。

【現況・減少要因】生育地の水田はハス田となったが，今のところ生育環境に大きな変化は認められない。今後土地改変が危惧されるところである。

【保護対策】溜池・水田など生育地の水環境維持を要する。

【特記事項】生育地点数は1ヶ所であるが，スブタとは種子の形態の違いであることから新産地が期待される。スブタと変種関係との見解もある。

(市川正人)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トリゲモ

Najas minor All.

被子植物 トチカガミ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地点の生育個体数も少ない。

【種概要】湖沼や溜池に生育する一年生の沈水植物。全長20~50 cmで多分枝する。葉は線形で長さ1~2 cm、鋸歯が目立ち、多くは反り返る。葉鞘の先端は切形。種子表面には横長の網目模様がある。オオトリゲモに似るがトリゲモの葯室は1室である（オオトリゲモは4室）。

【分布】本州、四国、九州。県内では伊賀市、松阪市に記録がある。国外では世界の温帯~熱帯に広く分布する。

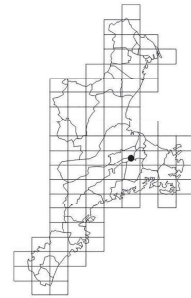
【現況・減少要因】開発圧力やアメリカザリガニの食害が減少要因となる。

【保護対策】環境影響評価結果に配慮した開発計画をすること。ザリガニの駆除に取り組むことなどである。

【特記事項】県内標本として1950黒川（三重県立上野高等学校所蔵）、1987浜島（大阪市立自然史博物館所蔵）がある。

(市川正人)

(写真：伊賀市，1950年，黒川喬雄採集，三重県立上野高等学校所蔵)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

ヒロハノエビモ

Potamogeton perfoliatus L.

被子植物 ヒルムシロ科

【選定理由】既知の生育地点数は1である。個体数は不明であるが、狭い養魚場跡内の生育のためその数は限られる。

【種概要】主に湖沼に生える沈水性の多年草。葉は柄がなく、長さ1.5~9 cm、幅5~25 mm、広卵形~披針形と変化に富み、基部は明らかに茎を抱き、縁は波打つ。花期は6~9月。花茎は2~12 cm、先端に8~25 mmの花穂を着ける。水位の安定を好む水草である。

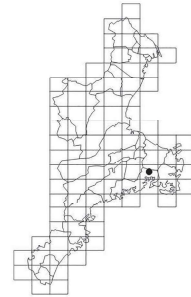
【分布】日本全土、県内では南伊勢町。国外では南米を除く広い地域。

【現況・減少要因】現在は繁茂しているが、養魚場の取り壊しや改築で絶える。

【保護対策】養魚場改変の際には同環境に移植が必要である。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora Thwaites ex Benth.

被子植物 ホンゴウソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は少ない。

【種概要】朽ち木や落葉の間に生える多年生の菌従属栄養植物。茎の高さ6~10 cm、径約0.8 mmでほとんど分枝しない。全体に赤紫色を帯び、葉は鱗片状。花は7~9月、上部に雄花、下部に雌花がつき、花柄は0.5~8 mm。

【分布】本州（中部以西）、四国、九州、沖縄、小笠原に分布。県内では大台町、大紀町、鳥羽市から記録されている。

【現況・減少要因】いずれの生育地も自生地周辺の生育環境は、今のところ現状維持され、安定している。しかし今後、森林伐採や土地造成等、開発による生育環境の改変の可能性も否定できない。

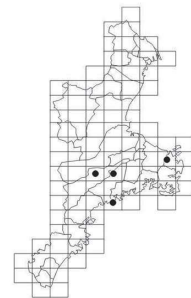
【保護対策】自生地およびその周辺の環境改変を避けることが必要。

【特記事項】三重県レッドデータブック2005では、津市の標本記録（1933）が掲載されていたが、その後の調査により標本はホンゴウソウの誤同定であることが判明した。近年、新産地情報が微増している。

【文献】39.

(山本和彦)

(写真：大紀町，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

VU